

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10⑦)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>



図 249. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんど毎日」と回答した割合が15.9%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と社会のできごとを話すか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10⑧)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>



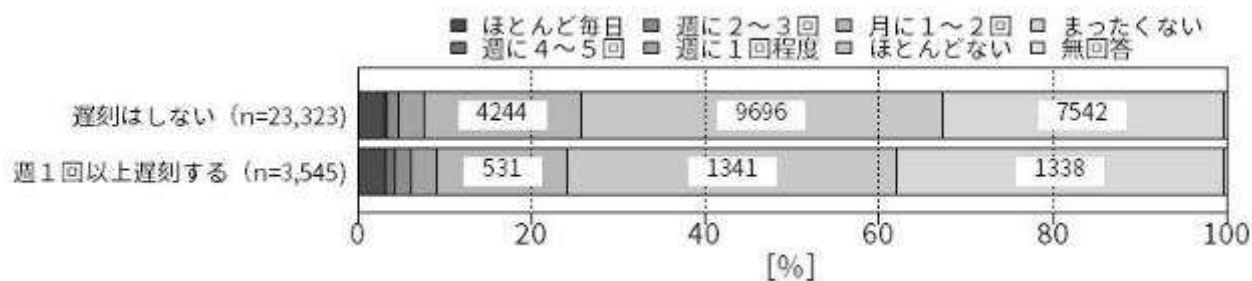
図 250. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「まったくない」と回答した割合が20.7%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と文化活動をするか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10㉠)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

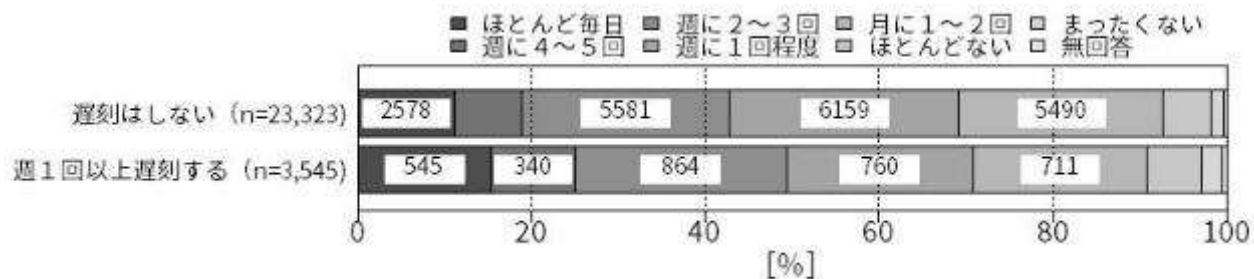


図 251. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と文化活動をするか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「まったくない」と回答した割合が42.7%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と一緒に外出するか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10⑩)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

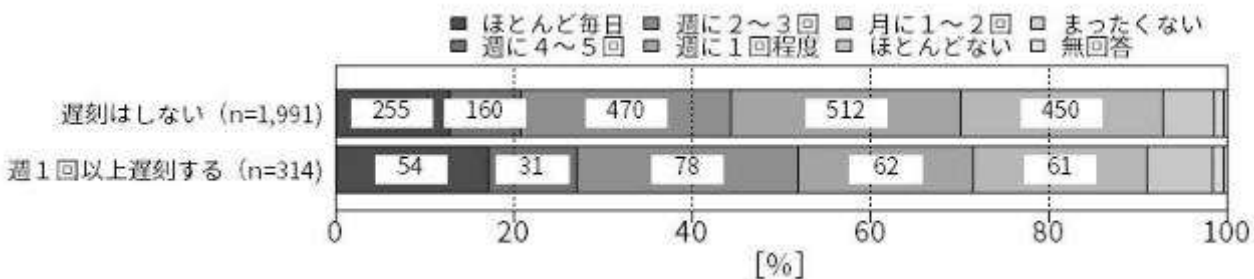
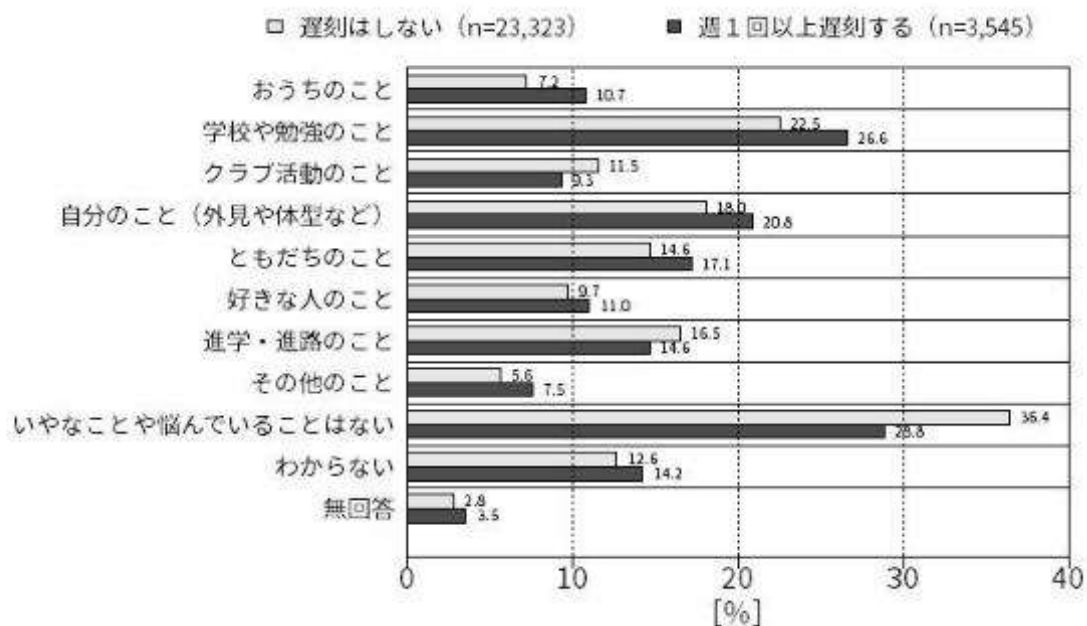


図 252. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と一緒に外出するか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり (おうちの大人と一緒に外出するか) を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんど毎日」と回答した割合が17.2%であった。

学校への遅刻別に見た、悩んでいること（子ども票 問9 × 子ども票 問21）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

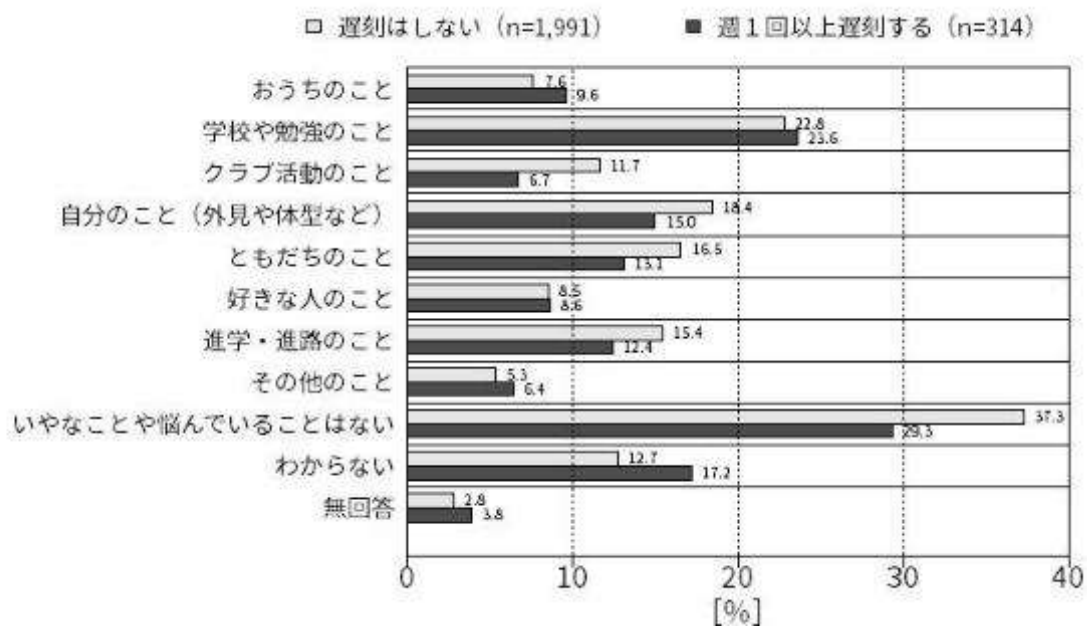
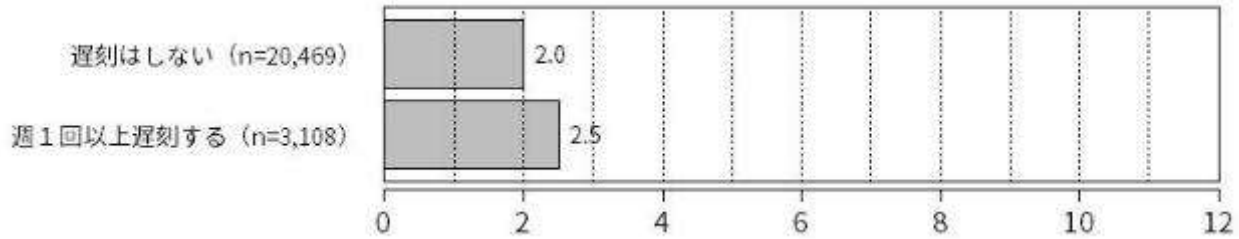


図 253. 学校への遅刻別に見た、悩んでいること

学校への遅刻別に子どもが悩んでいることを見ると、「週1回以上遅刻する」子どもの方が「遅刻はしない」子どもよりも、「おうちのこと」では2ポイント、回答した割合が高い。また、「遅刻はしない」子どもにおいては、「いやなことや悩んでいることはない」と回答した割合が37.3%である。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
 (子ども票 問9 × 子ども票 問24)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

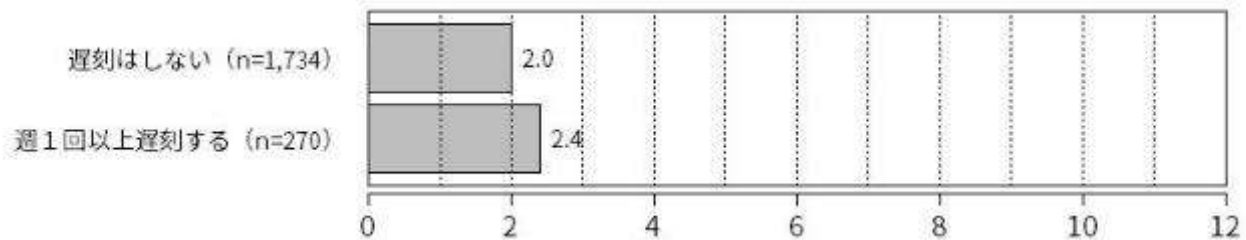


図 254. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

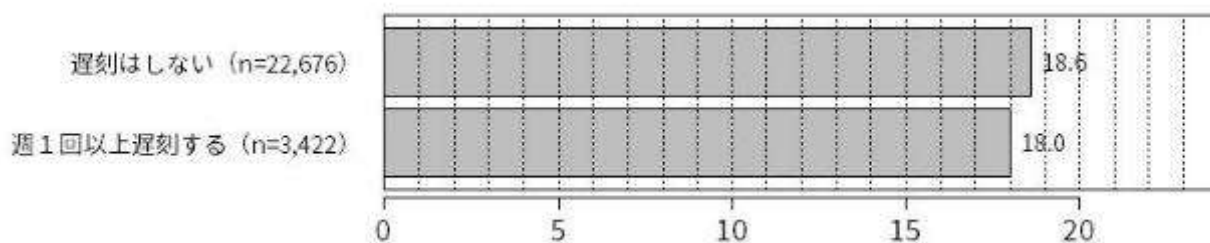
学校への遅刻別に子どもが自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、自分の体や気持ちで気になることが平均2.4個該当している。

学校への遅刻別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問9 × 子ども票 問26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図148上の説明参照。

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

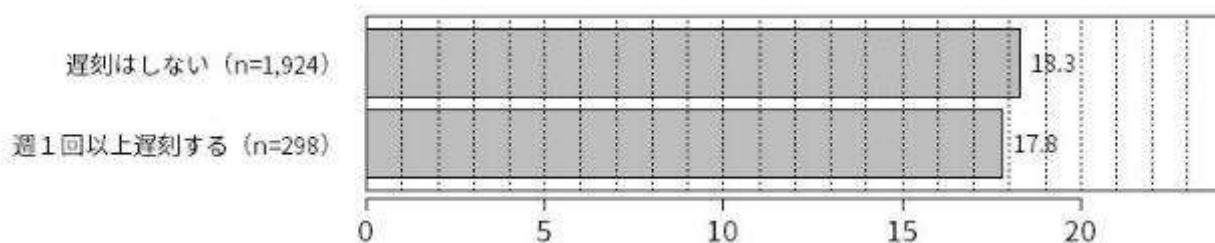
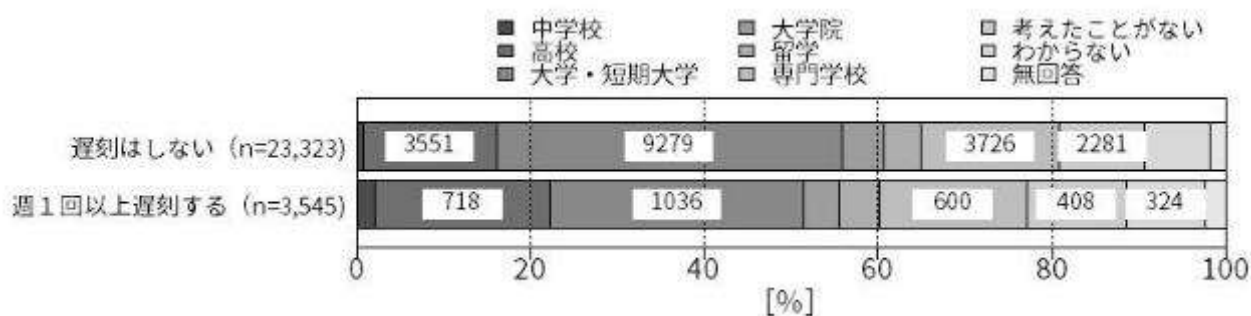


図 255. 学校への遅刻別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは17.8点、「遅刻はしない」子どもは18.3点であった。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票 問9 × 子ども票 問27）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

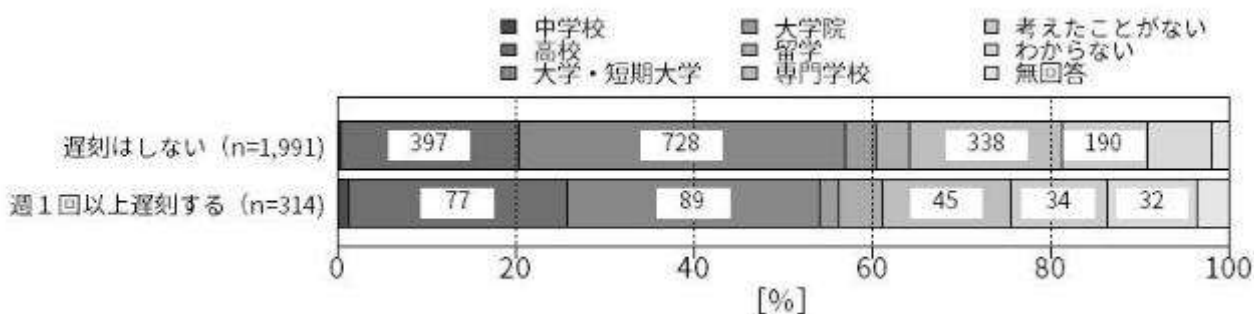


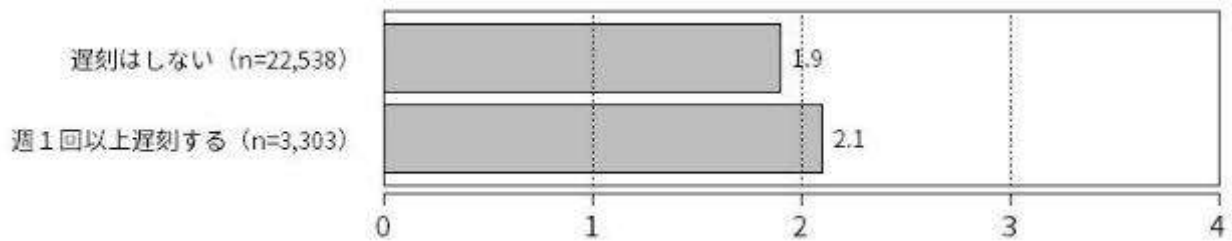
図 256. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に子どもの希望する進学先を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは「中学校」「高校」と回答した割合は合計すると 25.8%であった。「遅刻はしない」子どもは、「大学・短期大学」と回答した割合が 36.6%であった。

学校への遅刻別に見た、学習理解度（子ども票 問9 × 子ども票 問18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで4項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

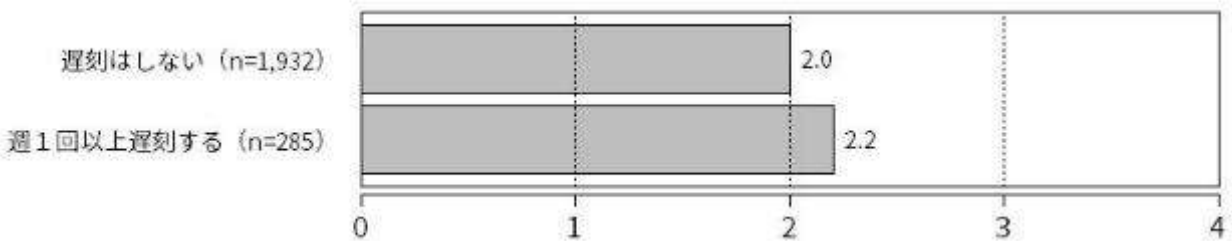
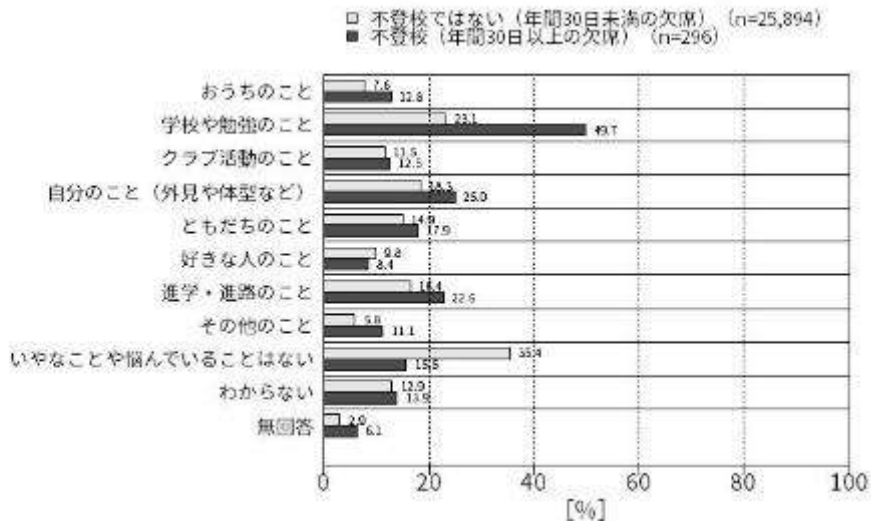


図 257. 学校への遅刻別に見た、学習理解度

学校への遅刻別に子どもの学習理解度を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは「遅刻はしない」子どもよりも学習理解度が低い傾向にあった。

登校状況別に見た、悩んでいること（保護者票 問 21 × 子ども票 問 21）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

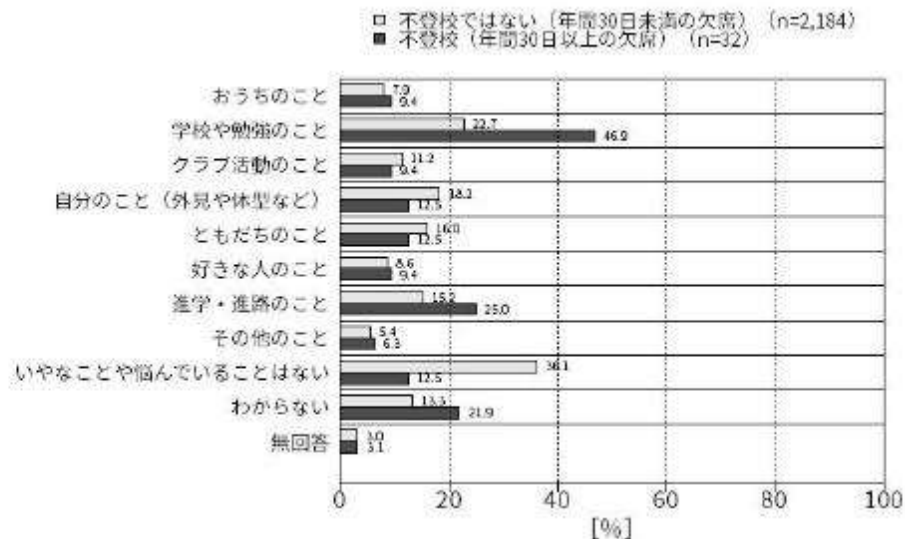


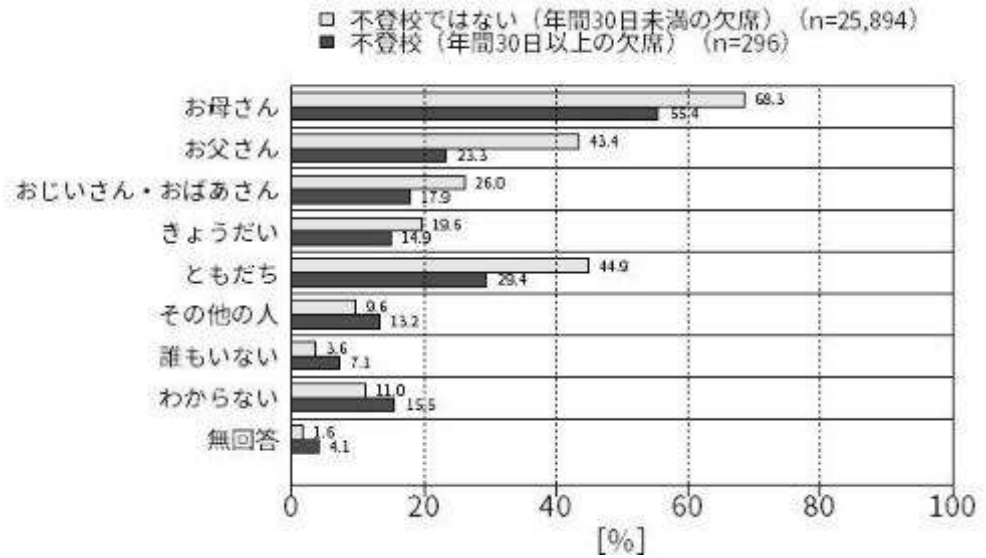
図 258. 登校状況別に見た、悩んでいること

ここでは、保護者票問 18 において「ほぼ毎日通っている」「欠席は年間 30 日未満である」を「不登校ではない」、「欠席が年間 30 日以上、60 日未満である」「欠席が年間 60 日以上、1 年未満である」「欠席が 1 年以上続いている」を「不登校」としている。

登校状況別に子どもの悩んでいることを見ると、「学校や勉強のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 2.1 倍、「進学・進路のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 1.6 倍、「おうちのこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 1.2 倍となっている。また、「不登校でない」子どもでは、「いやなことや悩んでいることはない」に該当するのは 36.1%であった。

登校状況別に見た、「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合
 (保護者票 問 21 × 子ども票 問 23⑥)

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

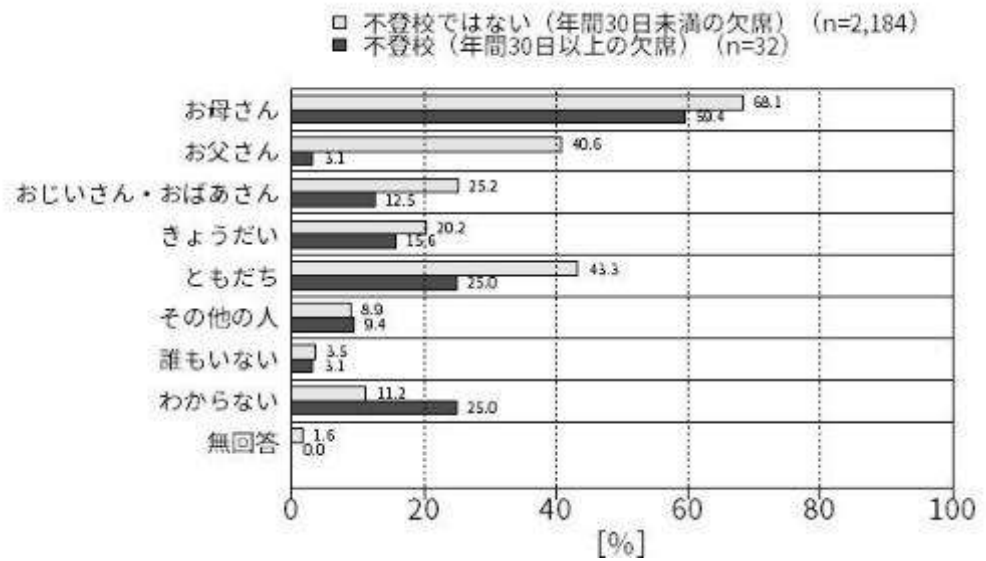
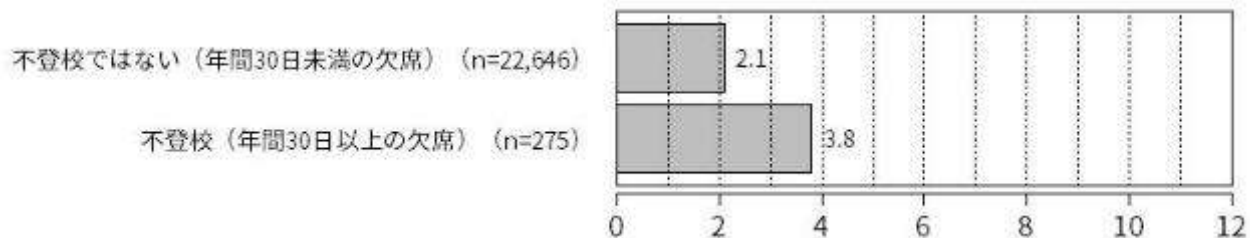


図 259. 登校状況別に見た、「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合

登校状況別に子どもの「悩んだときの対処を教えてくれる人」がいない割合を見ると、「不登校」では3.1%であった。

登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
 (保護者票 問 21 × 子ども票 問 24)

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

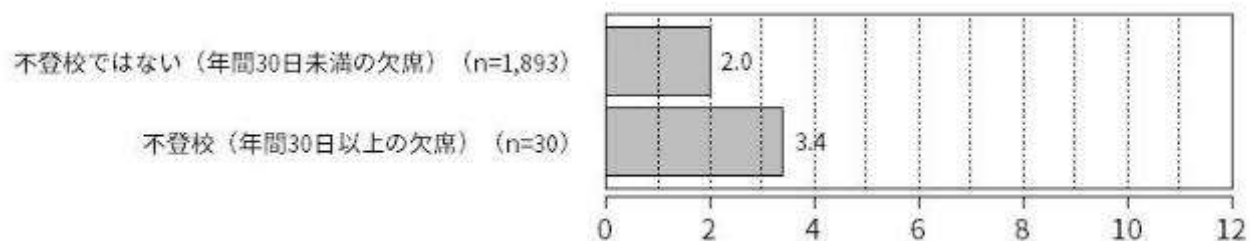


図 260. 登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

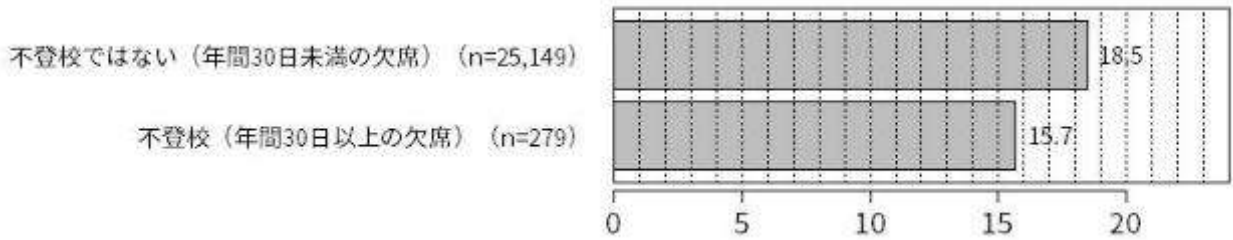
登校状況別に子どもの自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「不登校」では平均 3.4 個であり、「不登校ではない」子どもの約 1.7 倍である。

登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(保護者票 問 21 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

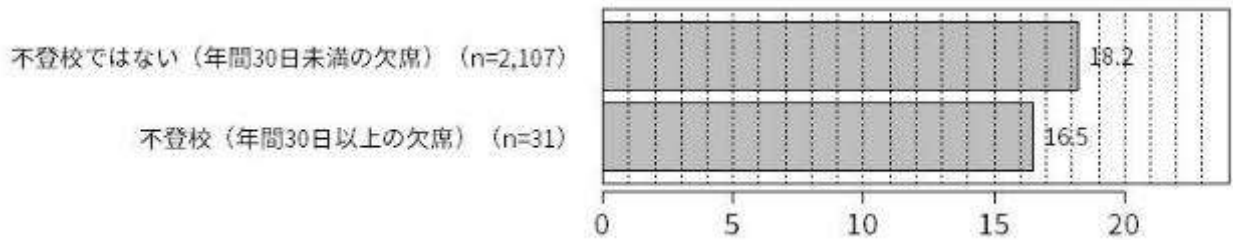
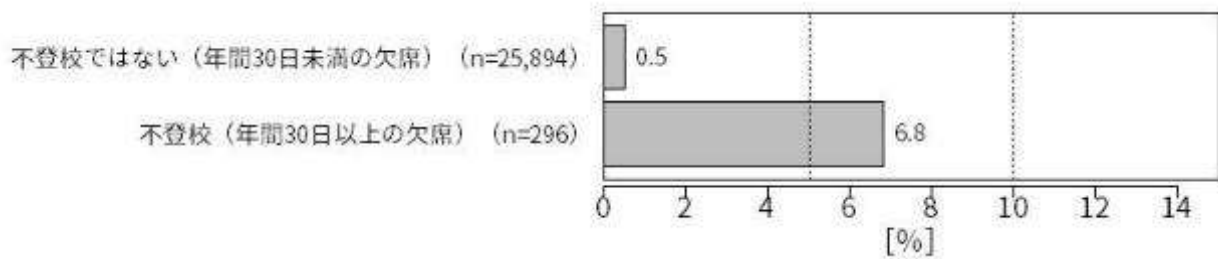


図 261. 登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

登校状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「不登校」では平均 16.5 点であり、「不登校ではない」子どもよりも約 2 点低い。

登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合（保護者票 問 21 × 子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

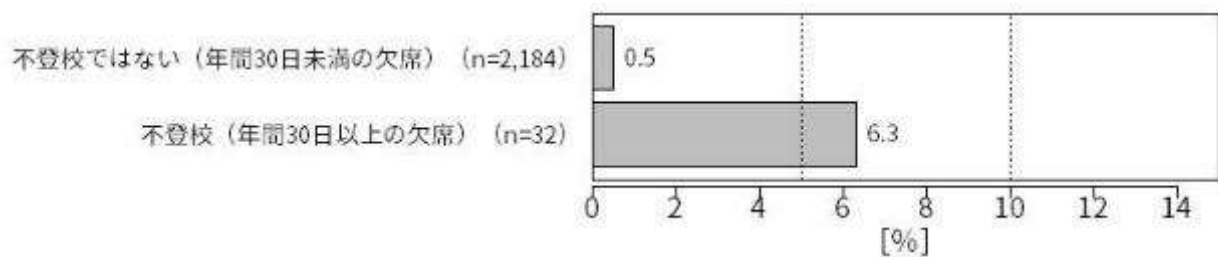
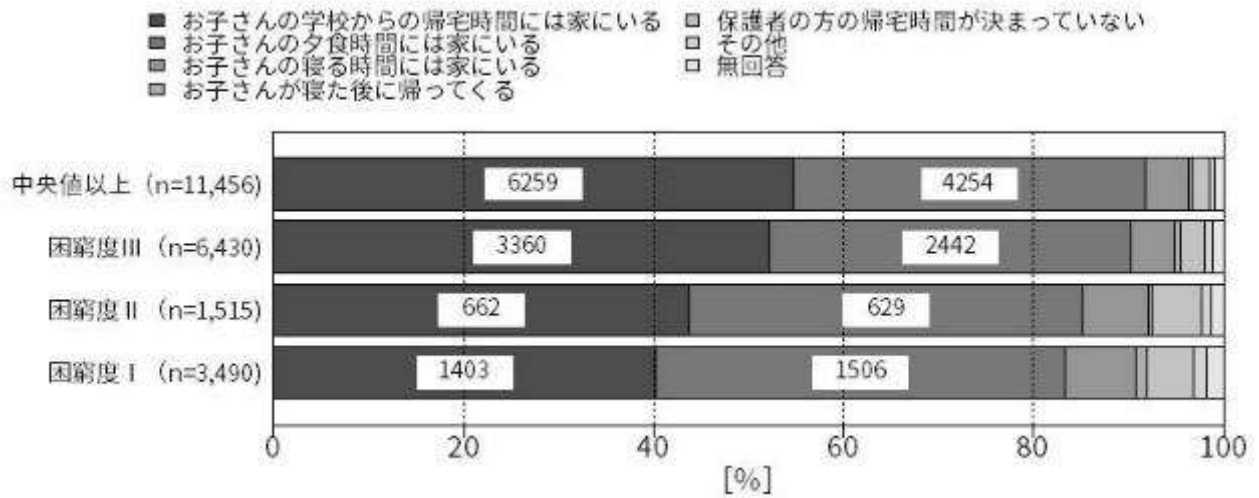


図 262. 登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合

登校状況別に子どもの嫌なことや悩んでいるときのスクールカウンセラーに相談する割合を見ると、6.3%（中央値以上群に対して、12.6倍）であった。

困窮度別に見た、保護者の在宅時間（保護者票 問10）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

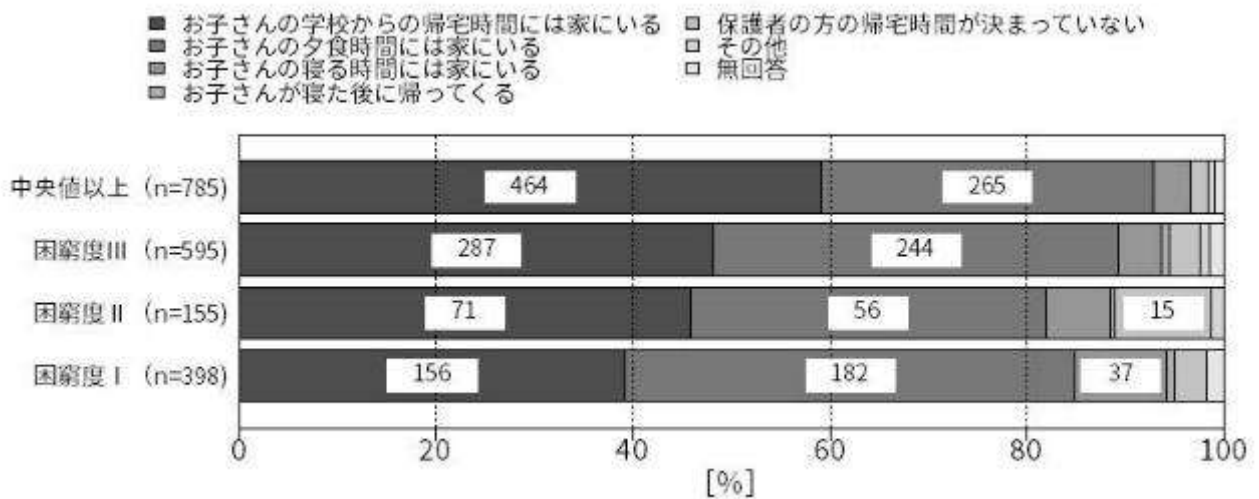
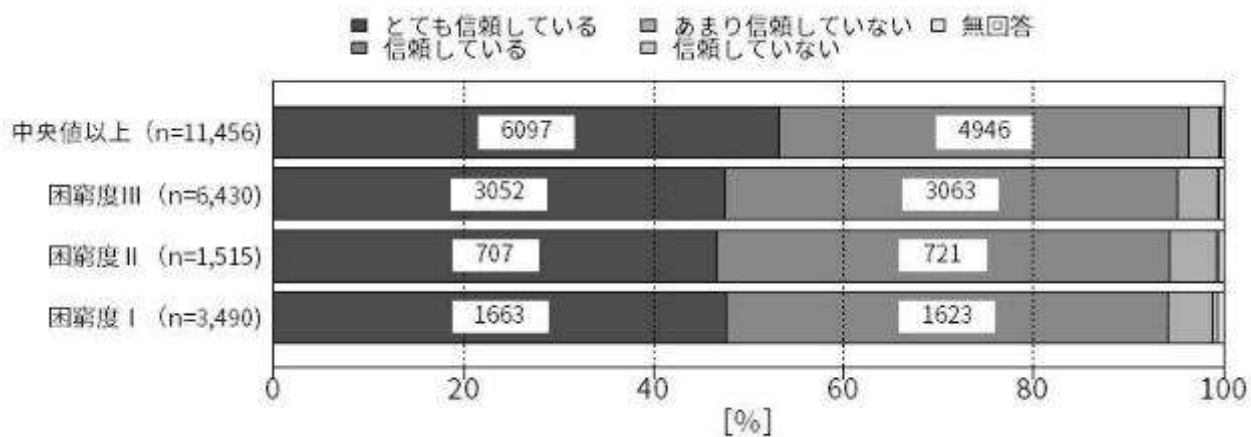


図 263. 困窮度別に見た、保護者の在宅時間

困窮度別に保護者の在宅時間を見ると、困窮度が高まるにつれて、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合が低くなる。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）（保護者票 問 14(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

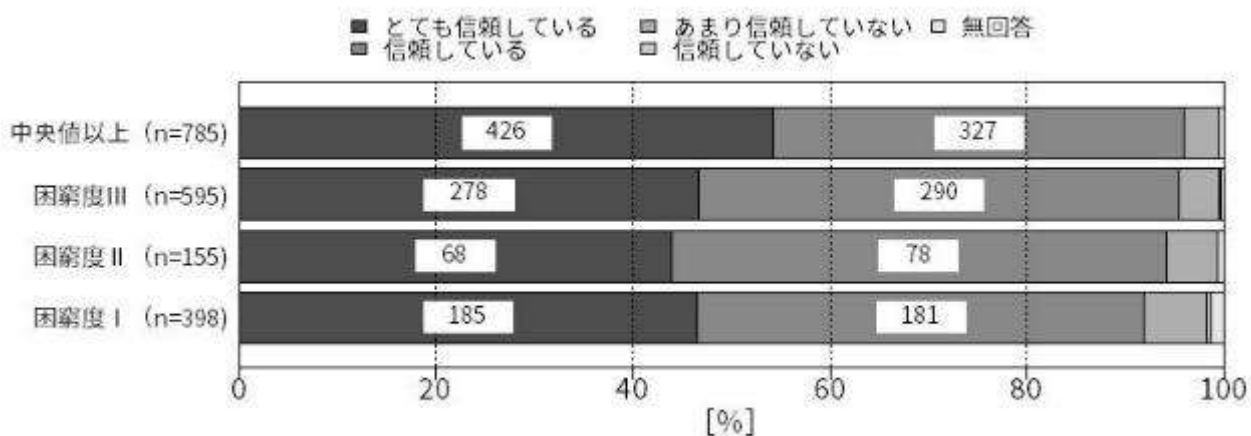
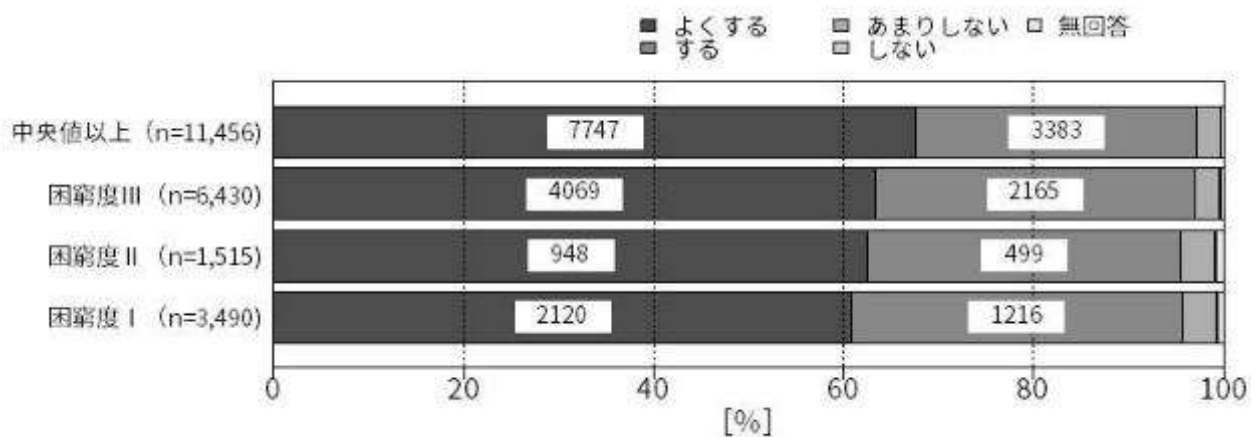


図 264. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、中央値以上群では 54.3%、困窮度 I 群では 46.5%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）（保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

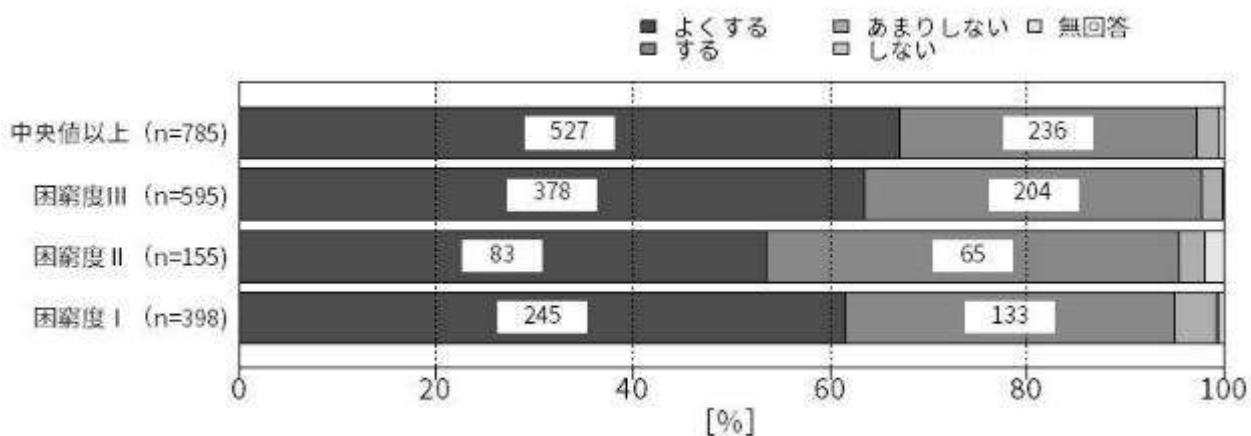
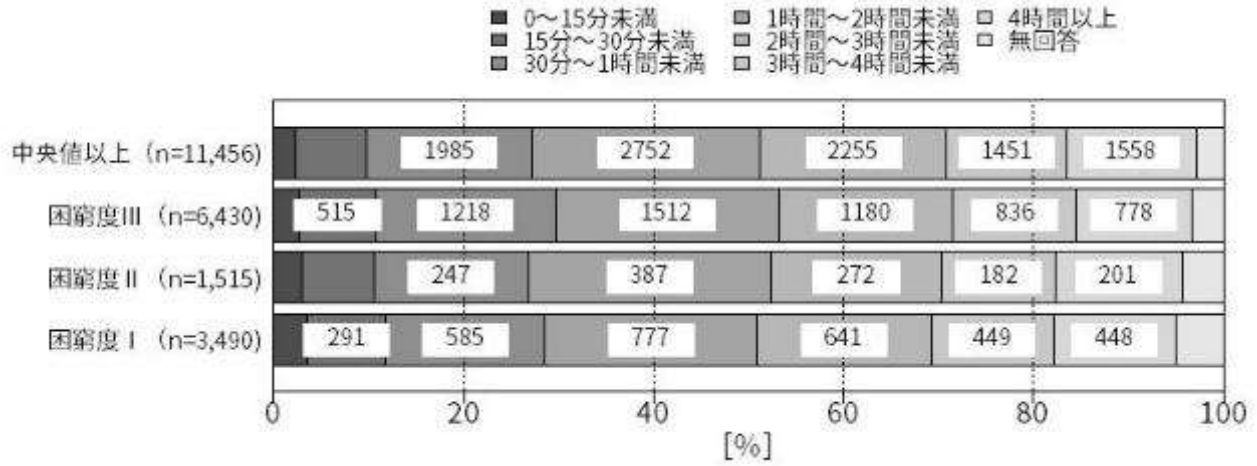


図 265. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「よくする」と回答した割合は、中央値以上群では 67.1%、困窮度Ⅰ群では 61.6%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

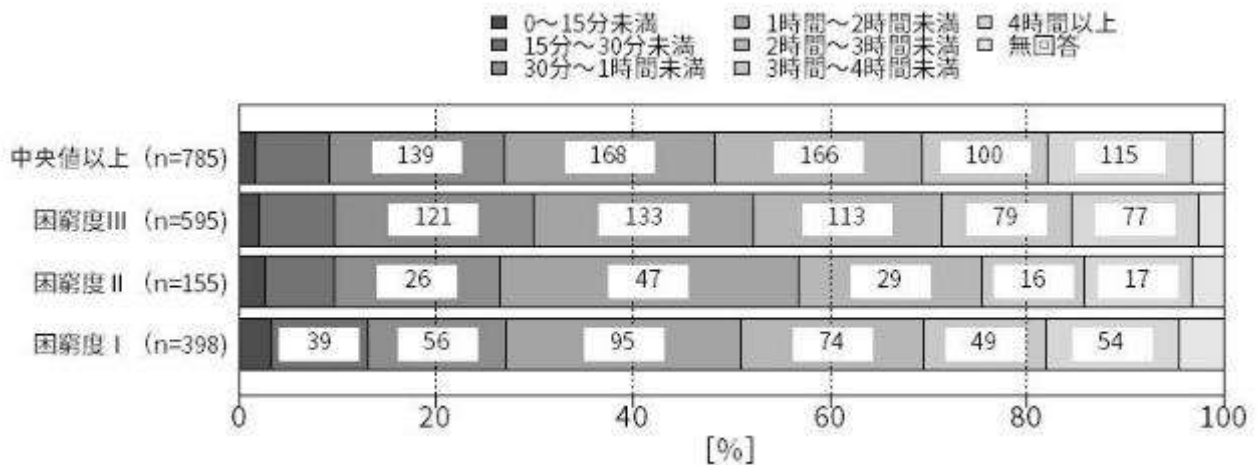
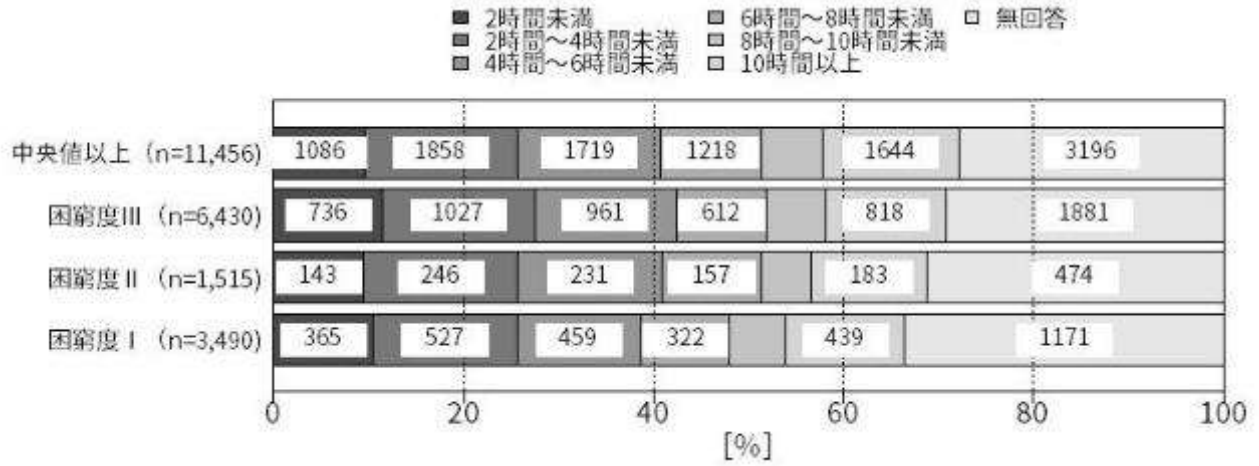


図 266. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（平日））を見ると、困窮度が高まるにつれて、「0～15分未満」「15分～30分未満」の割合が高くなった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

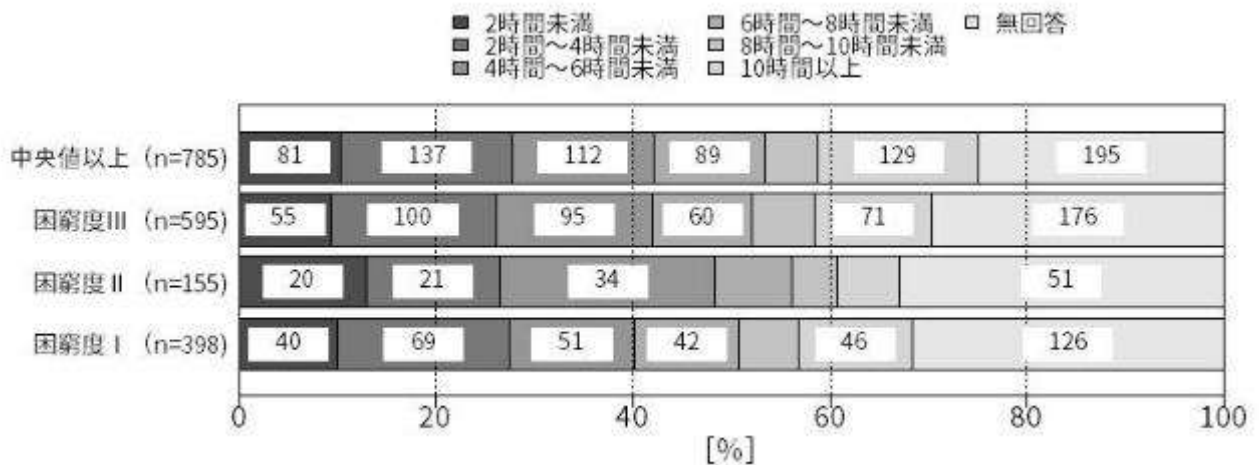
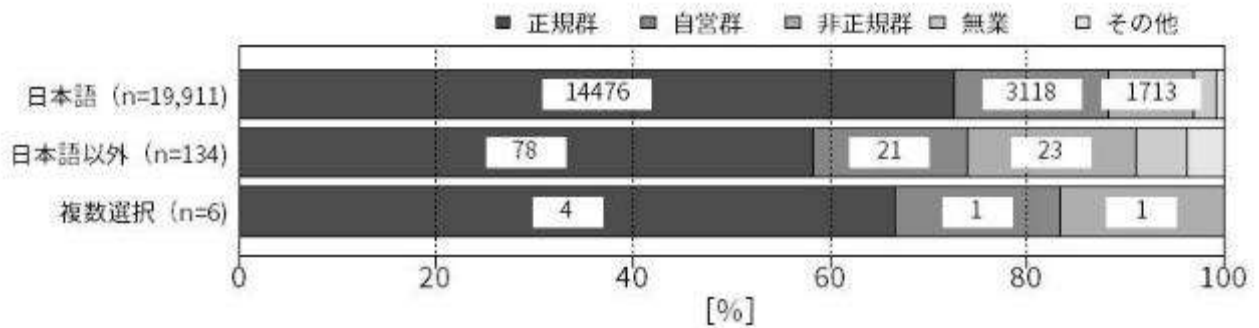


図 267. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））を見ると、困窮度による大きな差は見られなかった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況
 (保護者票 問2 × 保護者票 就労状況)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

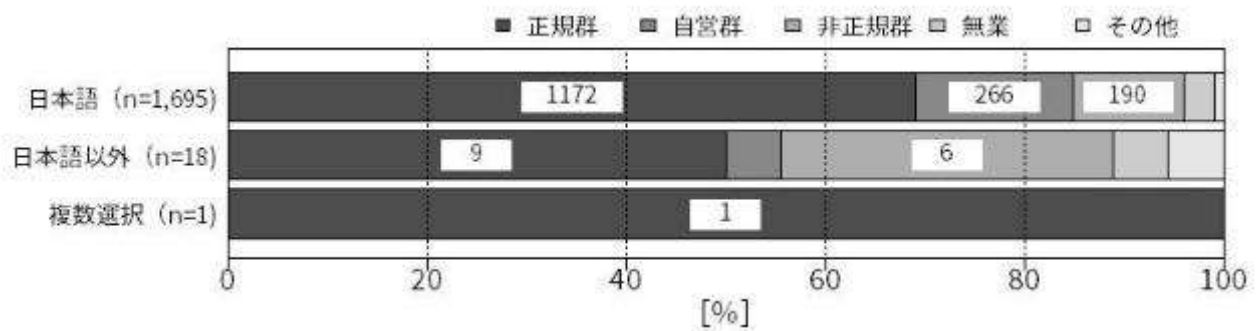
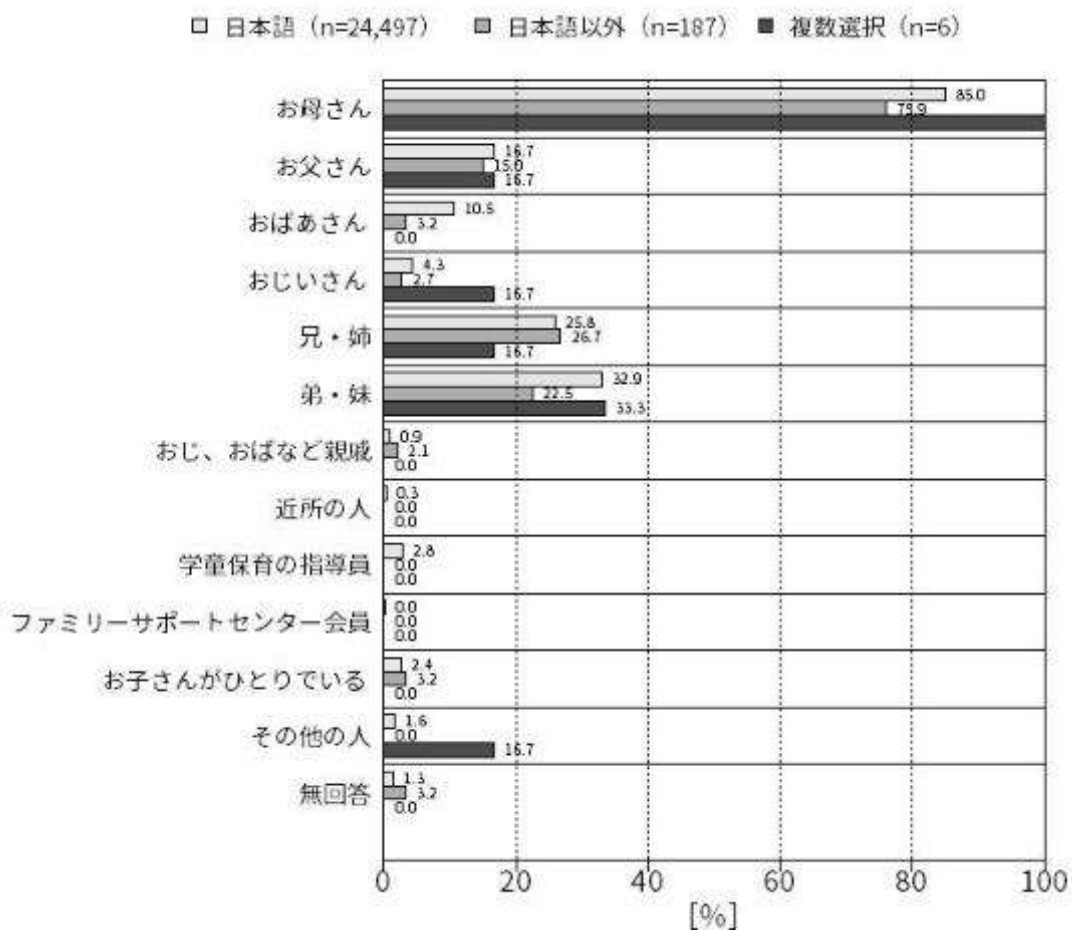


図 268. 日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人
 (保護者票 問2 × 保護者票 問11)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

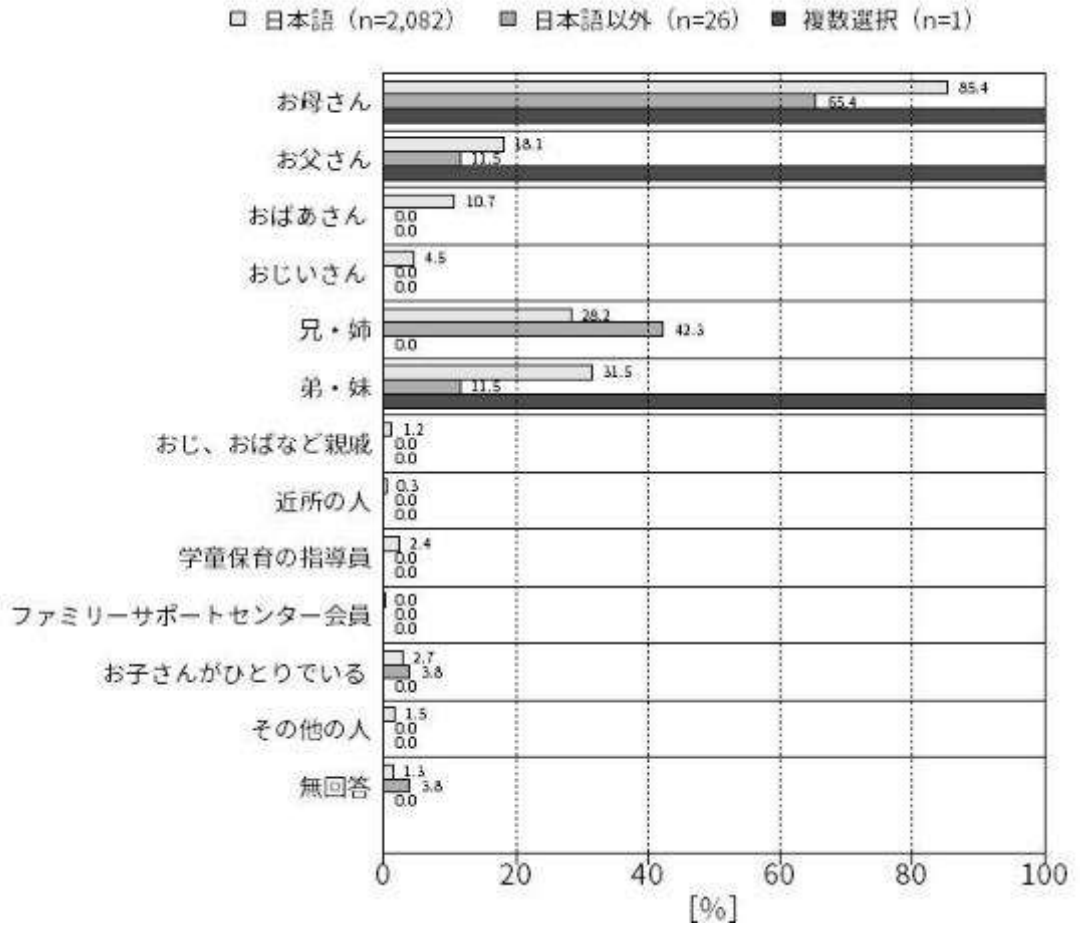
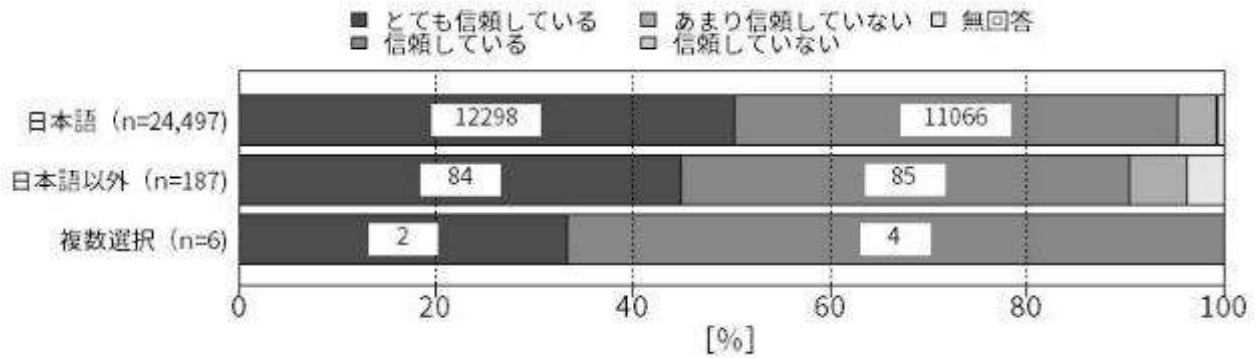


図 269. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

日本語を母語としない人の方が、日本語を母語とする人と比べて、子どもと過ごす時間が長い人を「お母さん」と回答した割合が 65.4%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 (子どもへの信頼度) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(1))

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

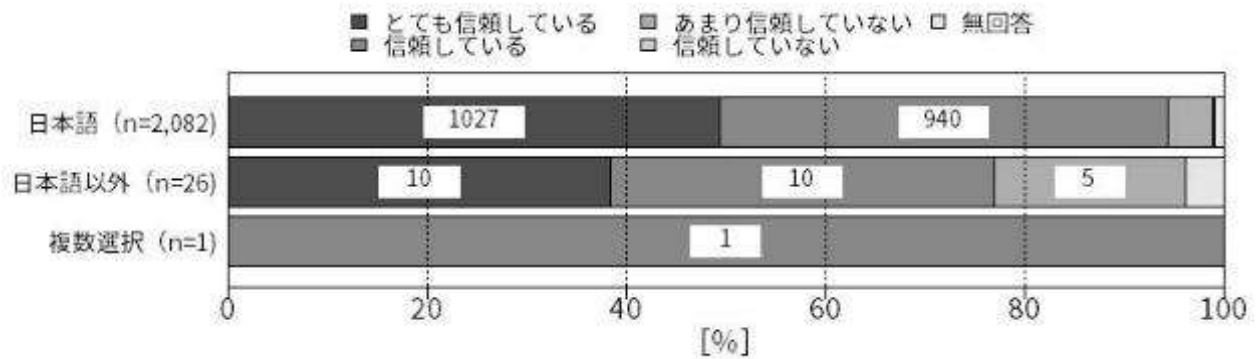
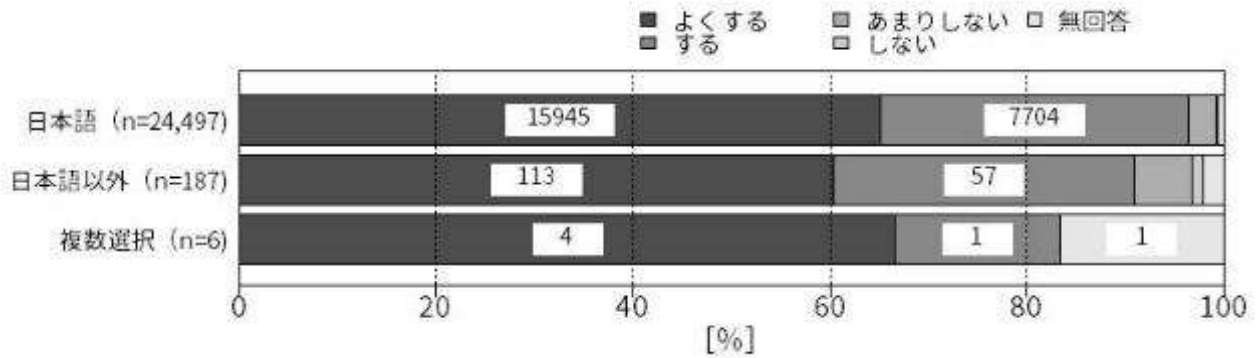


図 270. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもへの信頼度)

日本語を母語としない場合、子どもを「とても信頼している」と回答した割合が38.5%であったのに対し、日本語を母語とする場合では49.3%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 (子どもと会話) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(2))

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

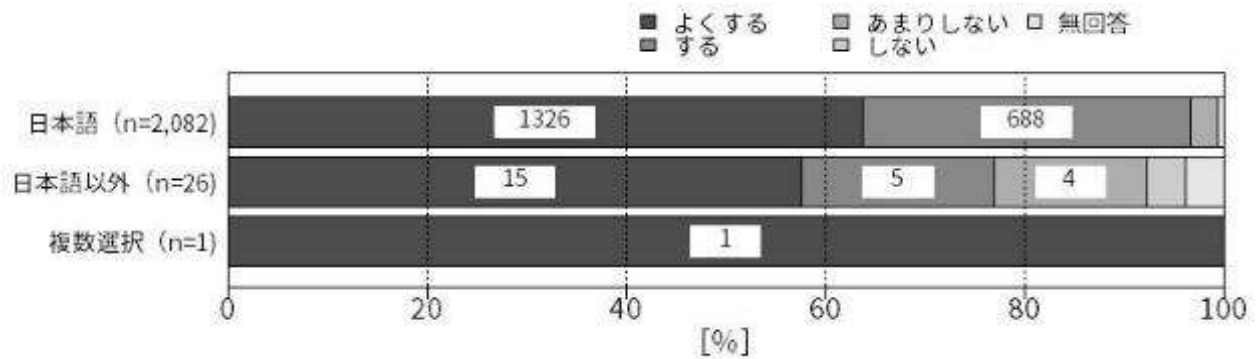


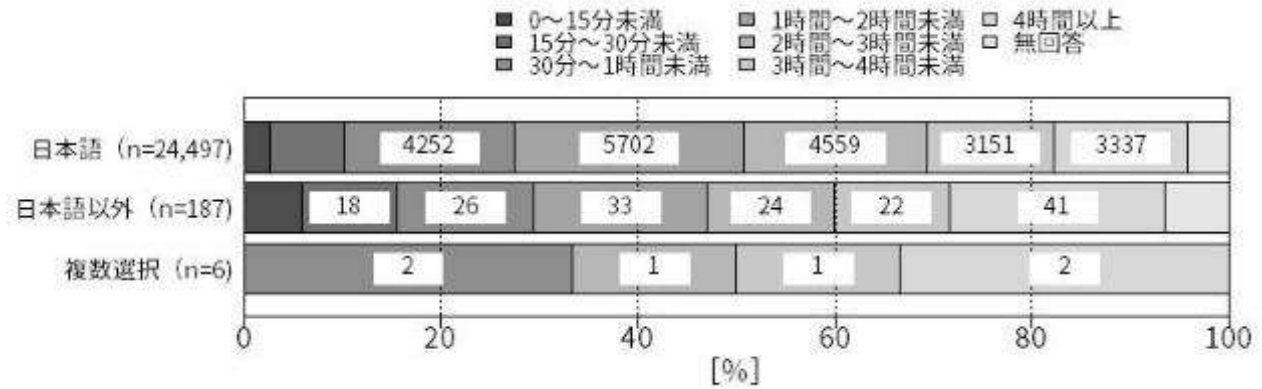
図 271. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもと会話)

日本語を母語としない場合、子どもと会話を「よくする」と回答した割合が 57.7%であったのに対し、日本語を母語とする場合では 63.7%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間(平日))(保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

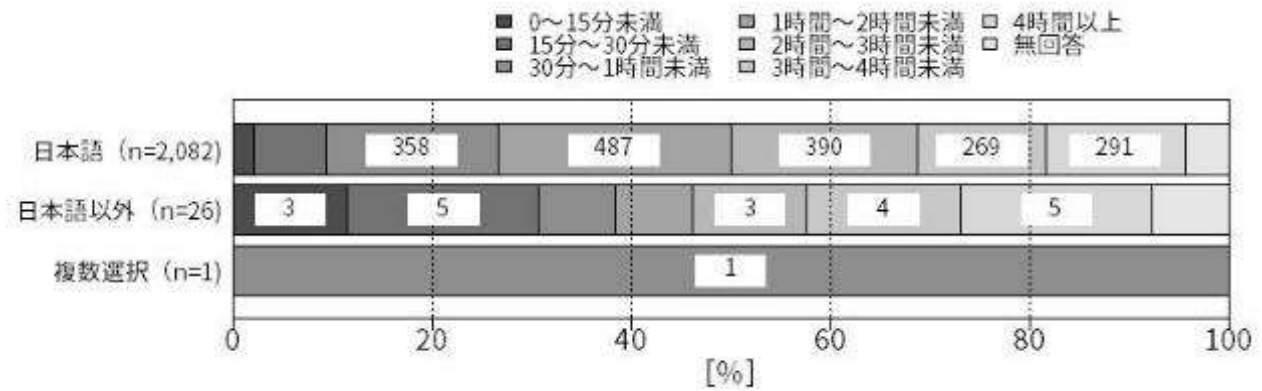


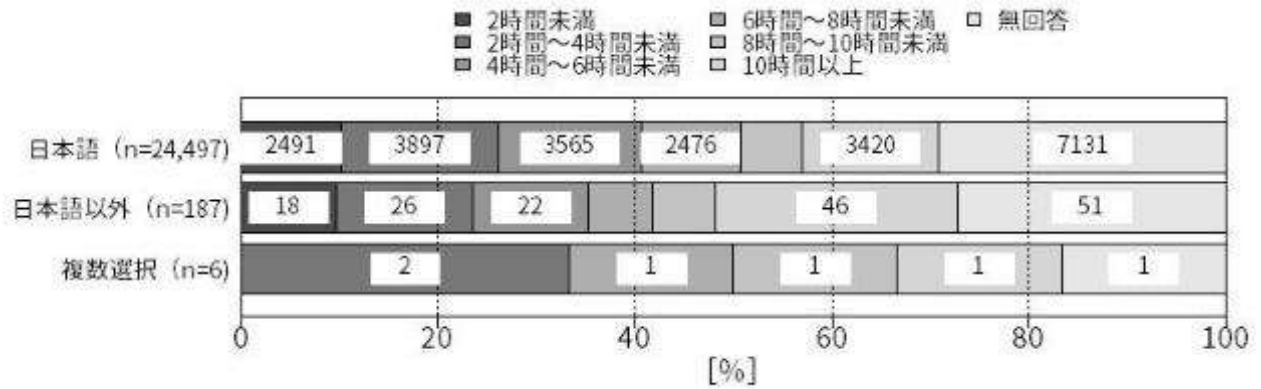
図 272. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
(子どもと一緒にいる時間(平日))

日本語を母語としない場合、平日に子どもと一緒にいる時間が「4時間以上」と回答した割合が19.2%であったのに対し、日本語を母語とする場合では14%であった。また、日本語を母語としない群では「0~15分未満」の割合も高い。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間(休日))(保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

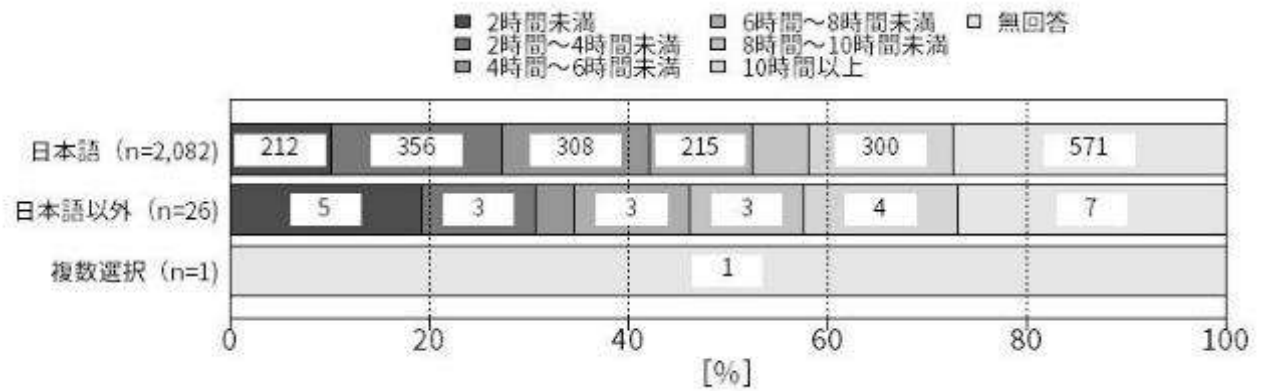
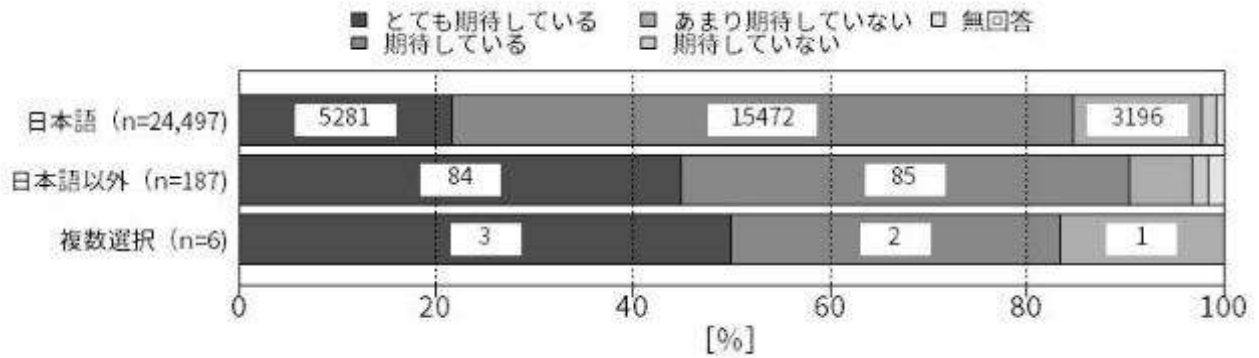


図 273. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
(子どもと一緒にいる時間(休日))

日本語を母語としない場合、休日に子どもと一緒にいる時間が「2時間未満」と回答した割合が高く、19.2%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
 （保護者票 問2 × 保護者票 問14(4)）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

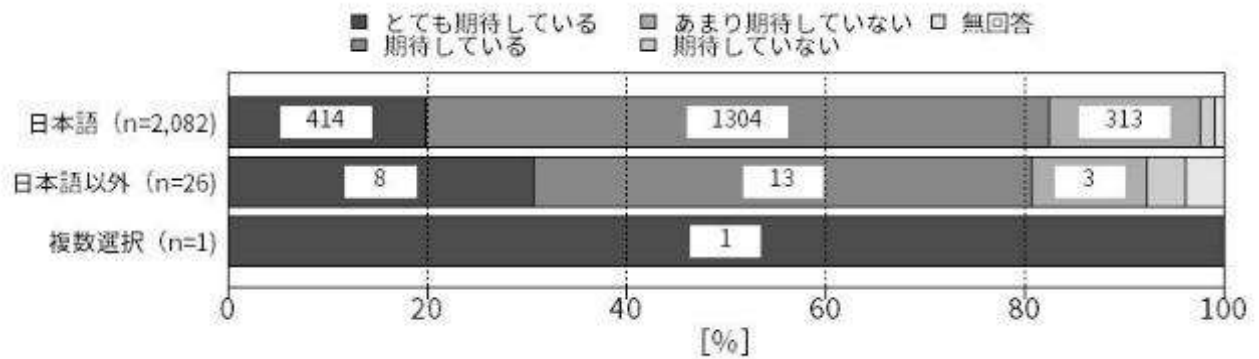
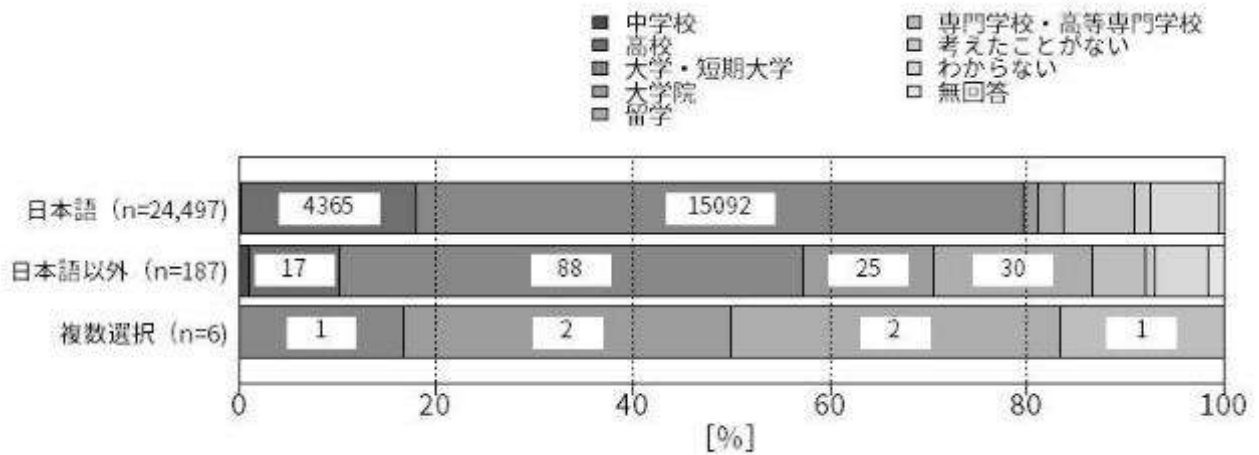


図 274. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 （子どもへの将来の期待）

日本語を母語としない場合、子どもの将来を「とても期待している」と回答した割合が30.8%であったのに対し、日本語を母語とする場合では19.9%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先（保護者票 問2 × 保護者票 問15）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

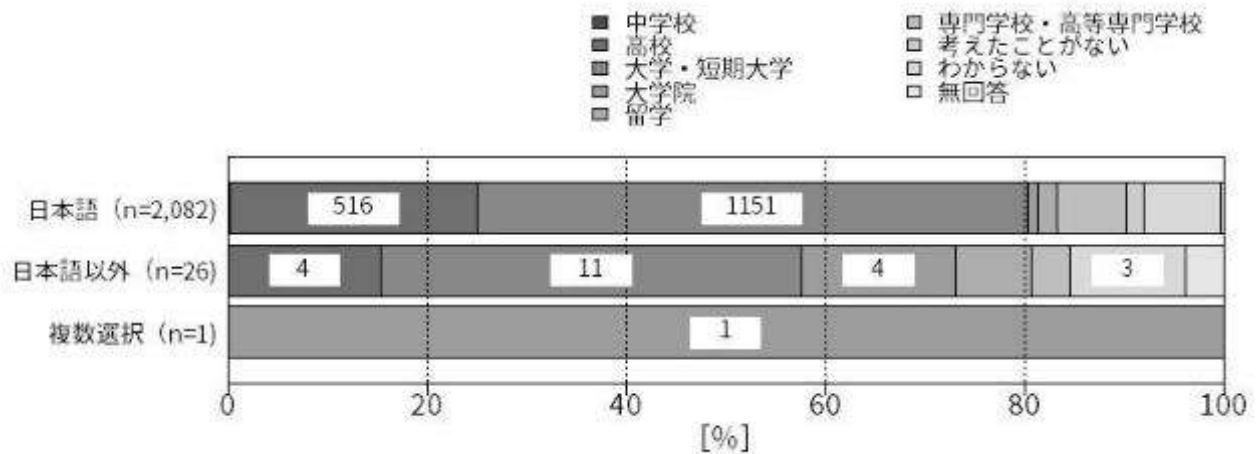


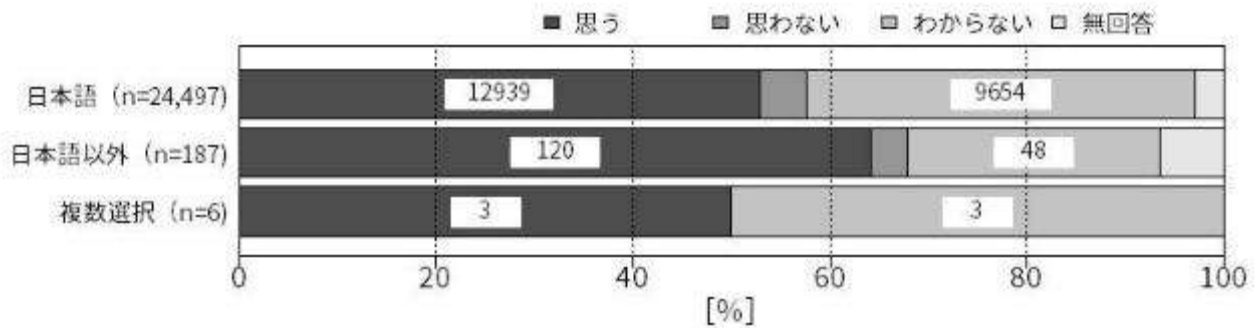
図 275. 日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先

日本語を母語としない場合、子どもの進学について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が 15.4%であったのに対し、日本語を母語とする場合では 24.8%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

(保護者票 問2 × 保護者票 問16)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

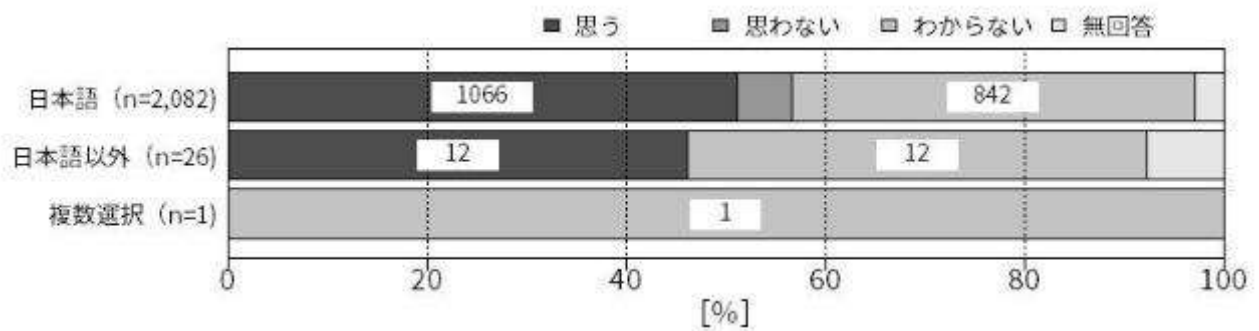
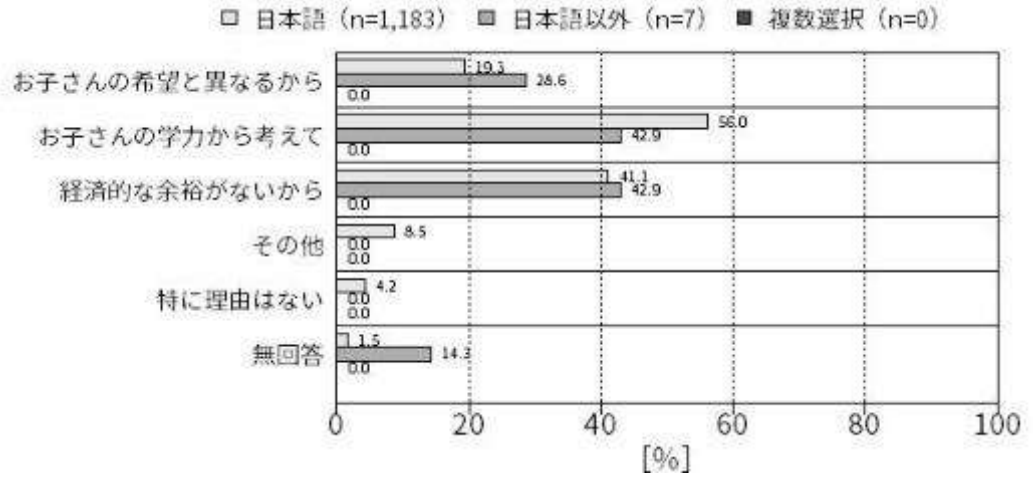


図 276. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

日本語を母語としない場合、子どもが希望する進学先まで進むと「思う」と回答した割合が46.2%であったのに対し、日本語を母語とする場合では51.2%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由
 (保護者票 問2 × 保護者票 問17)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

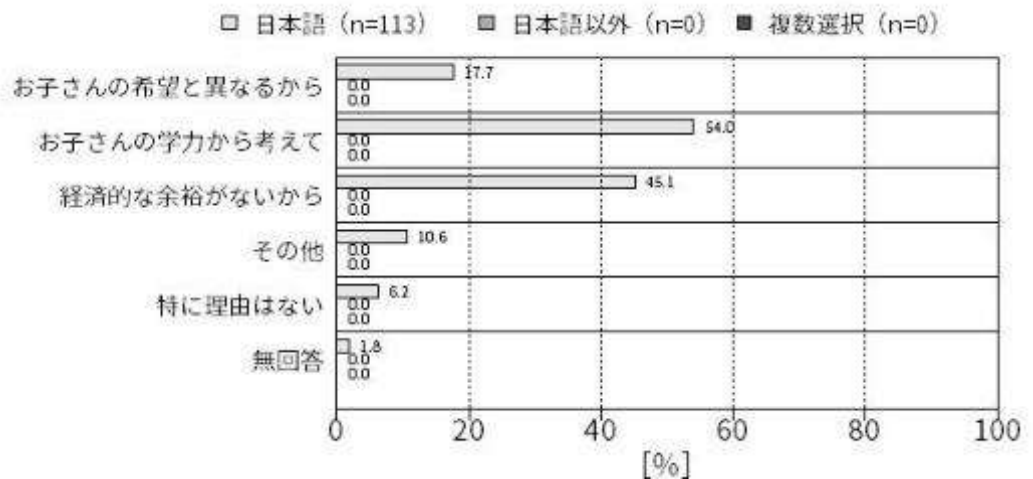
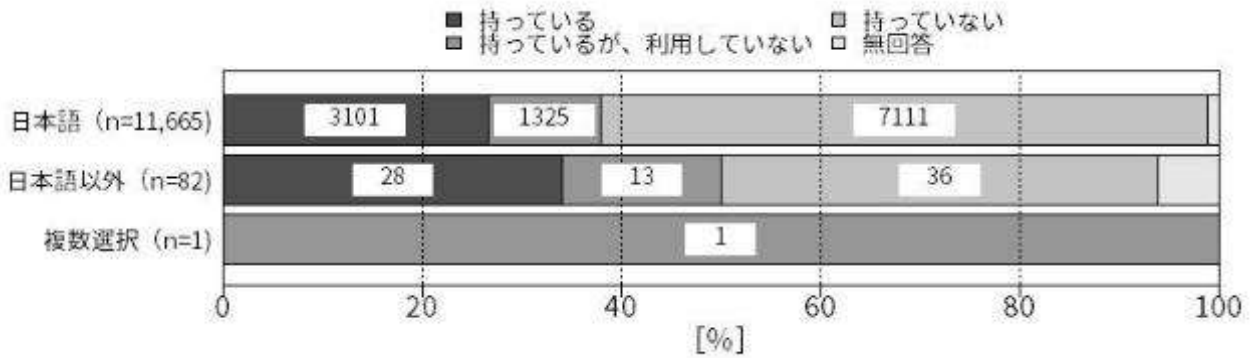


図 277. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

日本語を母語としない群は回答がなかったため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況
 (保護者票 問2 × 保護者票 問18)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

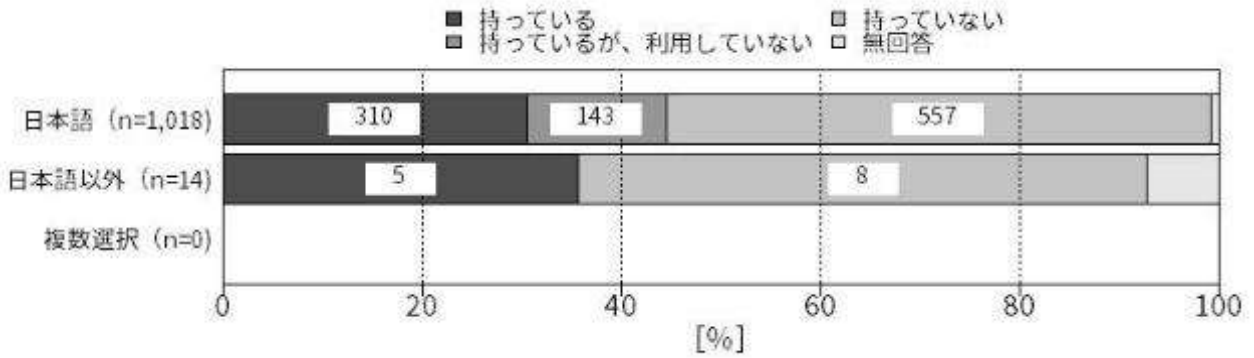
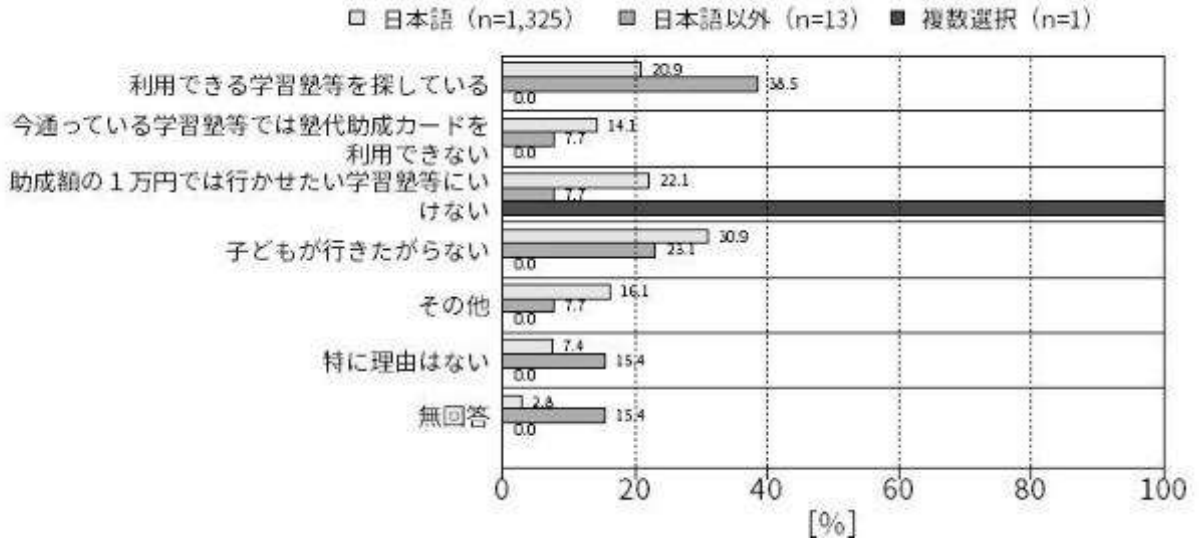


図 278. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由
 (保護者票 問2 × 保護者票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

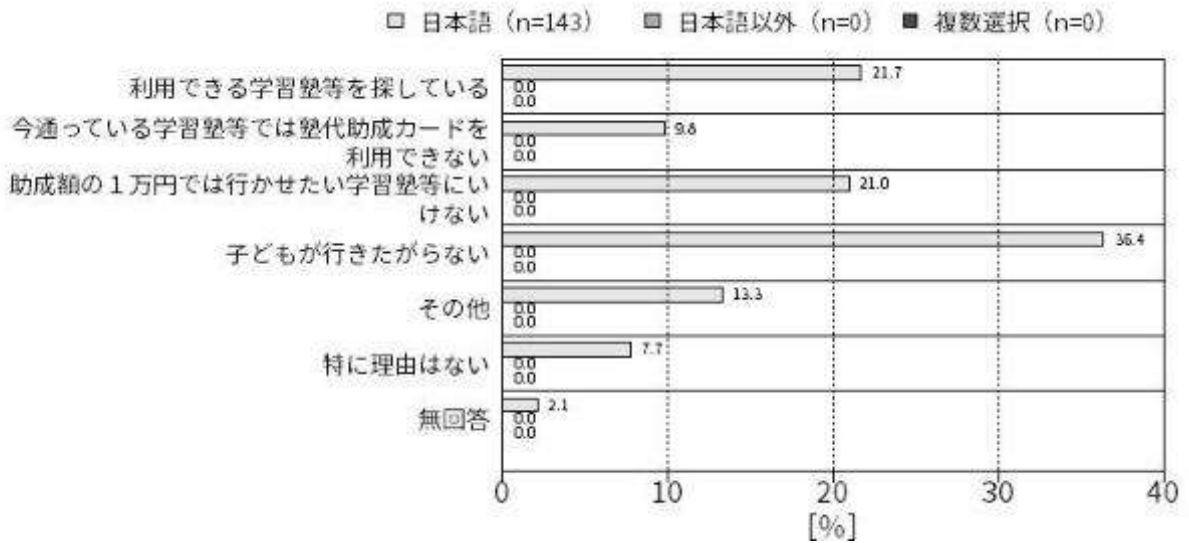


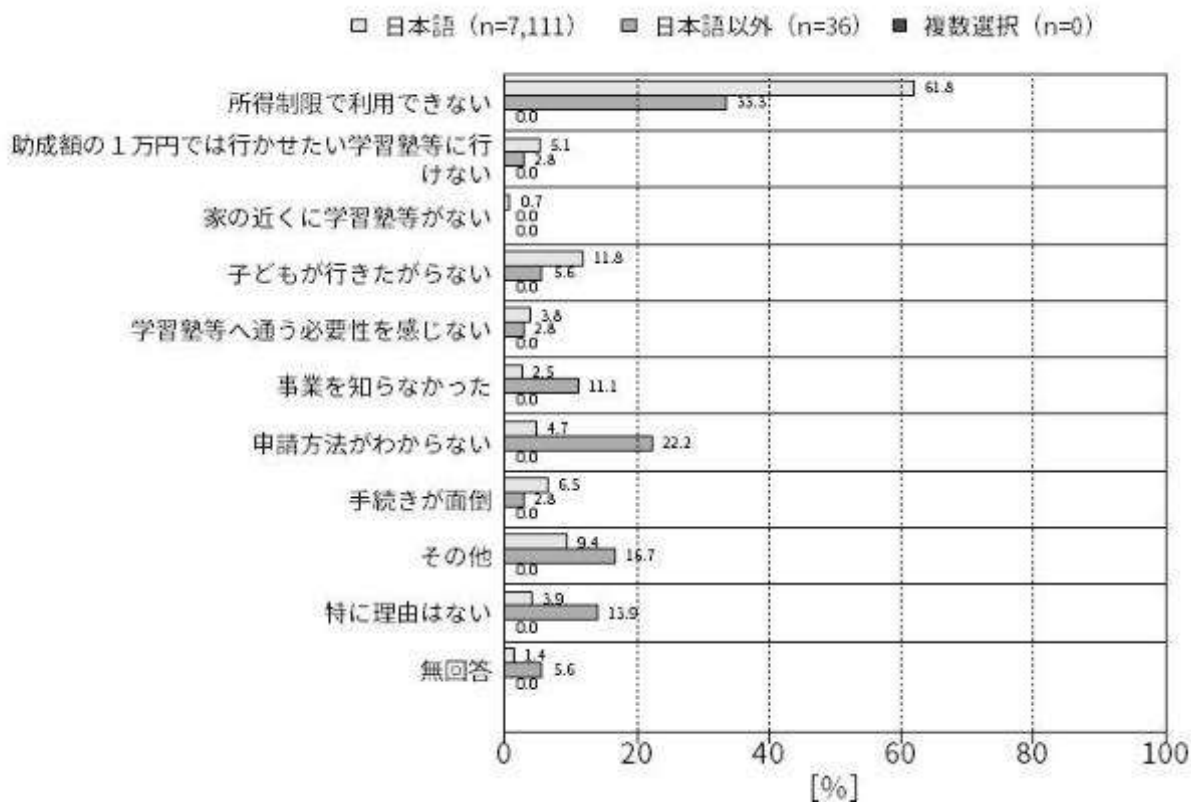
図 279. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由

日本語を母語としない群は回答がなかったため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

(保護者票 問2 × 保護者票 問20)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

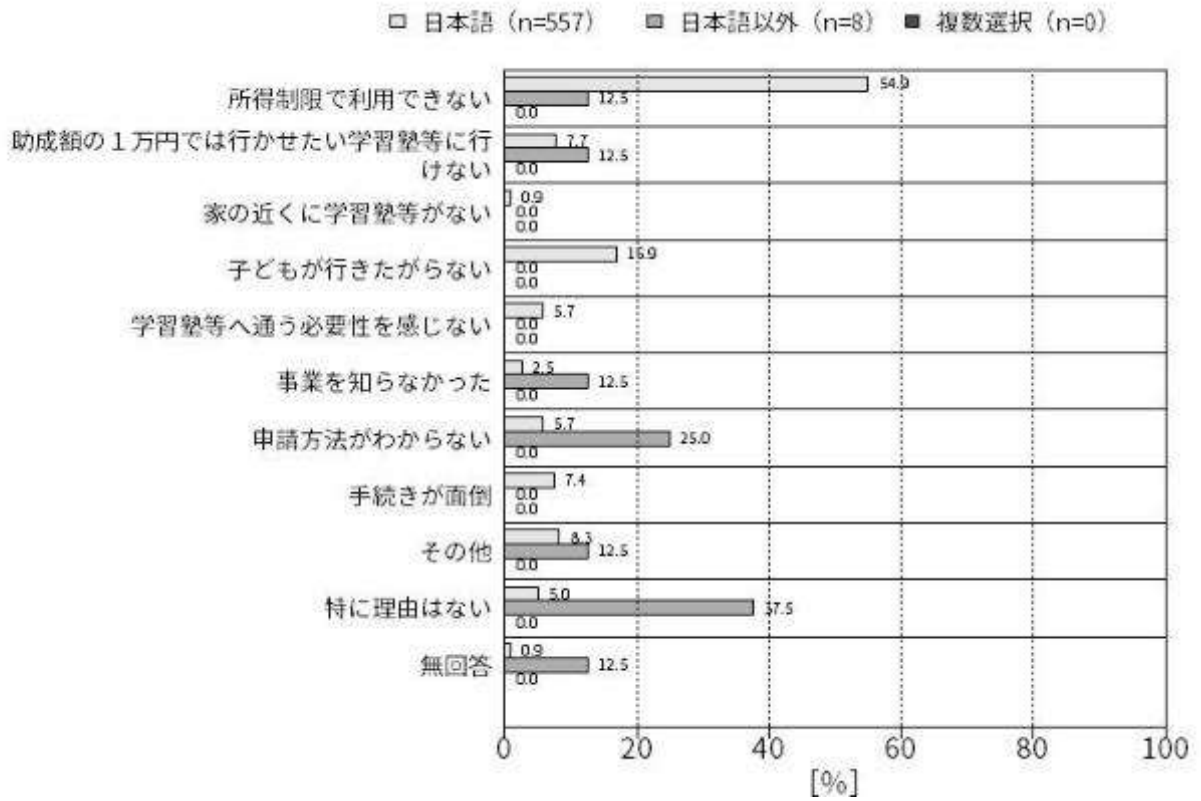


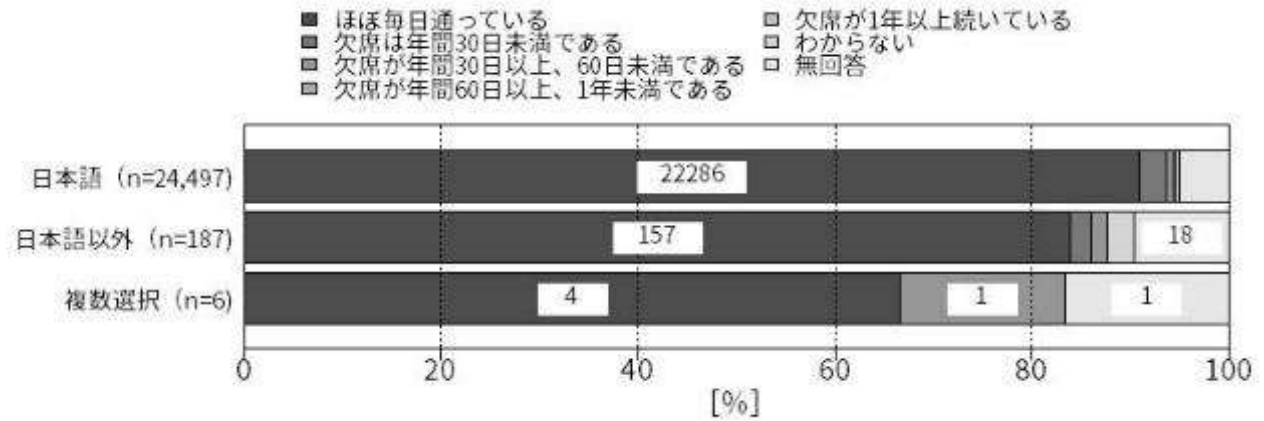
図 280. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

(保護者票 問2 × 保護者票 問21)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

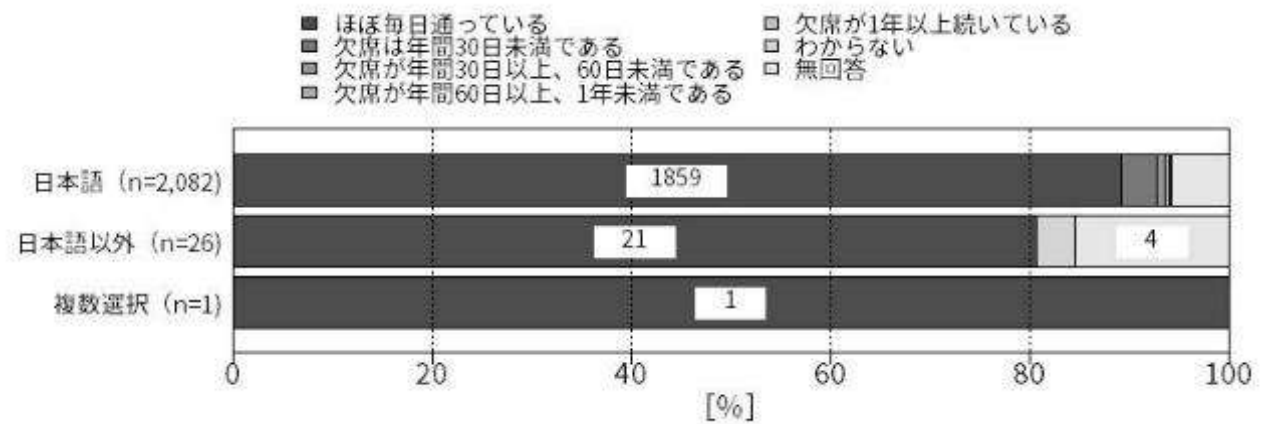


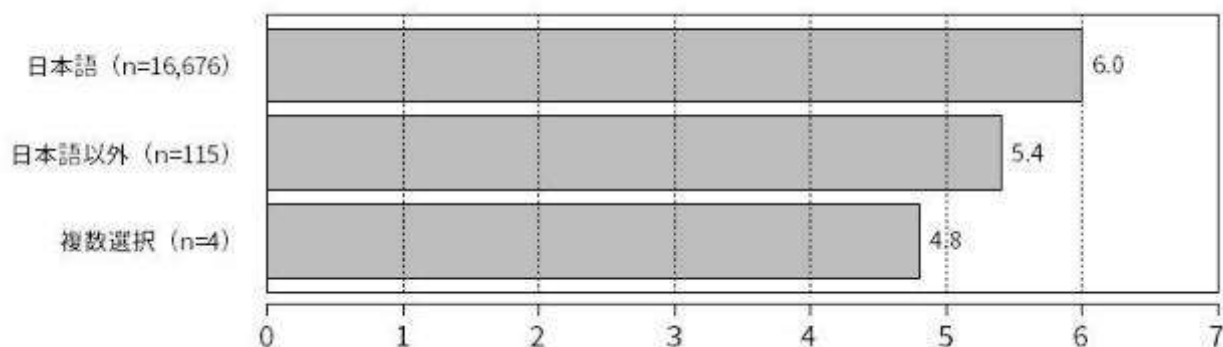
図 281. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

日本語を母語としない場合、学校に「ほぼ毎日通っている」と回答した割合は80.8%であったのに対し、日本語を母語とする場合は89.3%であった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点
 (保護者票 問2 × 保護者票 問23①~⑦)

※「支えてくれる人得点」については図198上の説明参照。

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

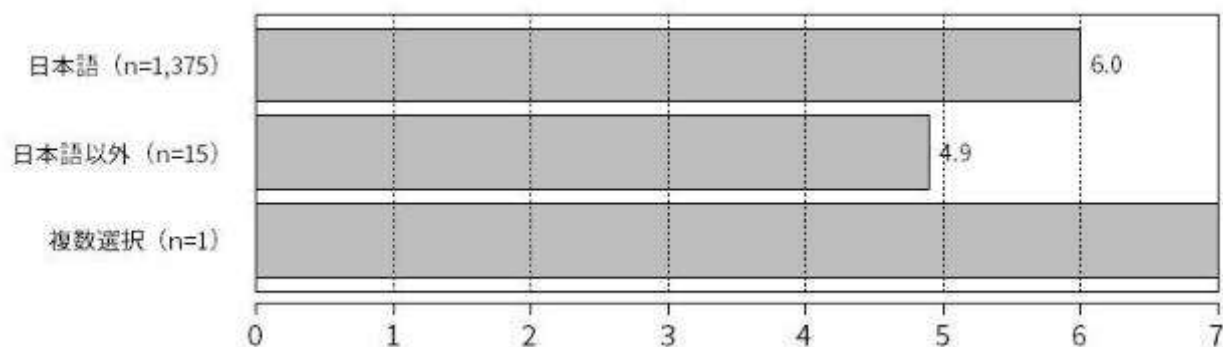


図 282. 日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

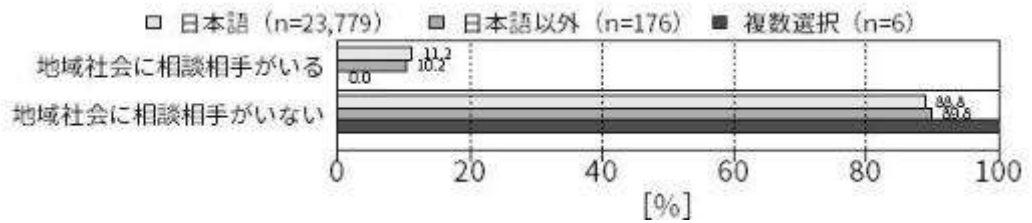
日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

(保護者票 問2 × 保護者票 問24)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問いに対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座(小・中学生を持つ保護者を対象)等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

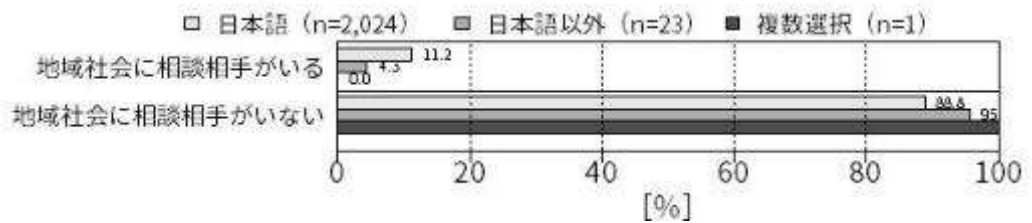


図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

日本語を母語としない場合は、「地域社会に相談相手がない」と回答した割合が95.7%であったのに対し、日本語を母語とする場合では88.8%であった。

<家庭生活・学習に関する考察>

困窮度が高まるにつれ、おうちの大人の人と一緒に朝食を取る頻度が下がり、困窮度Ⅰ群では、「まったくくない」「ほとんどない」合わせると34.3%（大阪市全体：35.3%）が朝食を一緒にとっていない。同様に、おうちの大人に宿題をみてもらう頻度、大人と文化活動をする頻度も困窮度が高まるにつれ下がっている。これは中央値以上群と10ポイント程度の差がある。困窮度Ⅰ群において、宿題を見てもらわない子どもは64.2%（大阪市全体63.2%）、文化活動を行わない子どもは82.1%（大阪市全体：78.1%）を占めた。

授業以外の勉強時間について、困窮度が高まるにつれ、30分以内しか勉強しない子どもの割合が増える。「まったくくない」または「30分より少ない」時間しかしない人は、中央値以上群で24.8%（大阪市全体：21.0%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では36.1%（大阪市全体：33.2%）を占める。また、学習理解度が困窮度の高さで下がっていることも見られ、困窮度Ⅰ群では、「ほとんどわからない」「あまりわからない」人が27.0%（大阪市全体：23.4%）になる。勉強時間の短さが学習理解度に影響している可能性が伺える。

同じ時刻に起床しない、朝食を毎日とらないなど生活習慣が確立していない子どものほうが勉強や読書を「まったくくない」傾向がある。これらの生活習慣は、困窮度が高くなると確立していない傾向がみられた。

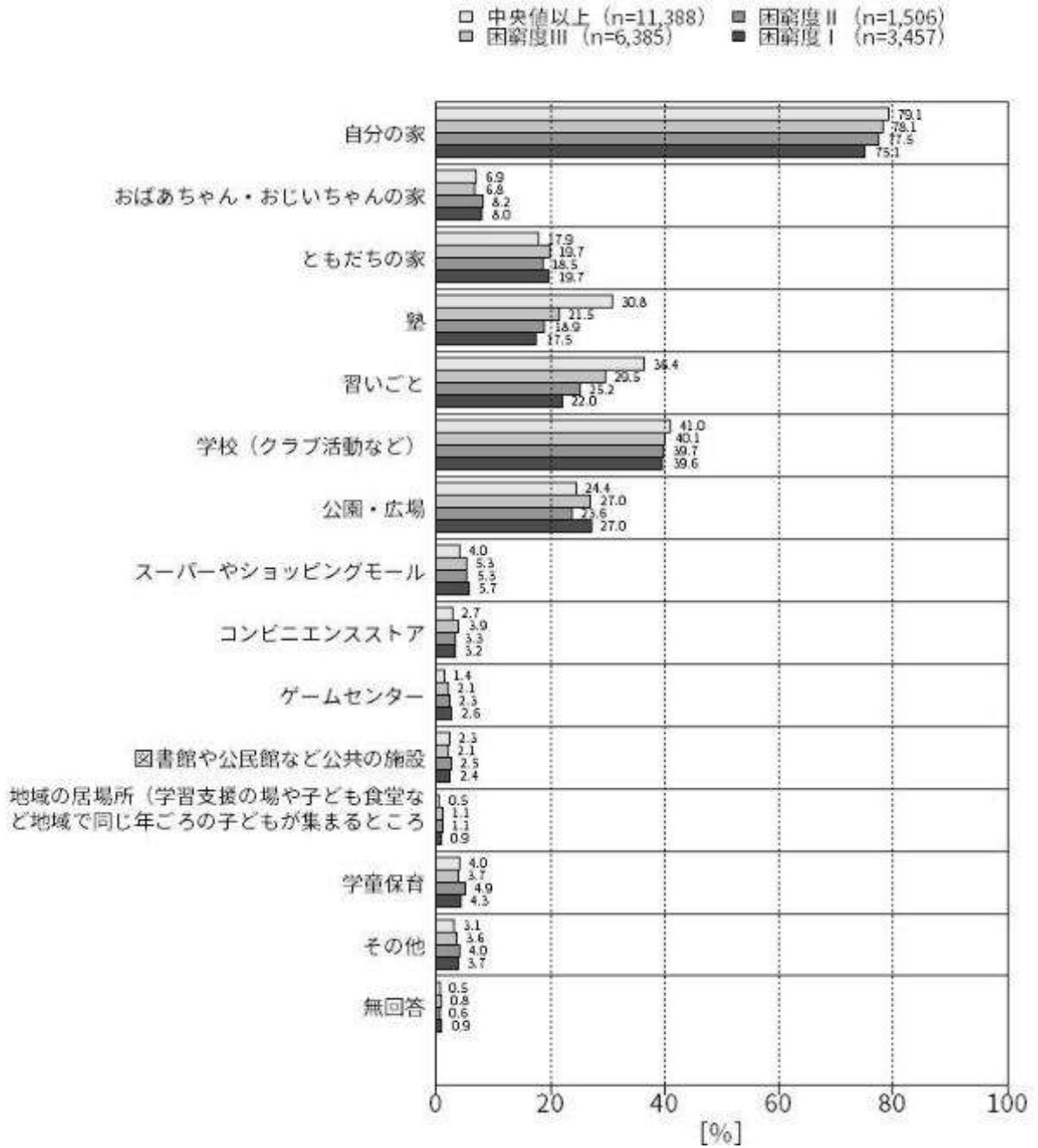
困窮度別に学校への遅刻を見ると、困窮度が高まるにつれ、週に1回以上遅刻をする子どもの割合が増え、困窮度Ⅰ群では、18.5%（大阪市全体：18.4%）である。このように週に1回以上遅刻をする子どもは、おうちの大人と一緒に朝食を食べることや、学校のできごとについて話すかどうかについて「ほとんどない」「まったくくない」と回答する割合がそれぞれ35.0%、22.3%であったことが確認された。これらは遅刻をしない子どもよりも高い割合である。同様に、週に1回以上遅刻をする子どもは学校や勉強のことやおうちのことで悩んでいるということも見られた。逆に、進学や進路のことで並んでいる割合は低かった。

また、本調査では、困窮度の高い世帯の子どもが学歴の低い進学先を希望する傾向があることが確認されている。子ども自身の進学希望として「中学」または「高校」と回答した割合は、中央値以上群では14.9%（大阪市全体：11.8%）であるのに対して、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群ではそれぞれ22.6%、23.5%、28.8%（大阪市全体：19.2%、20.6%、25.4%）であった。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問13）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

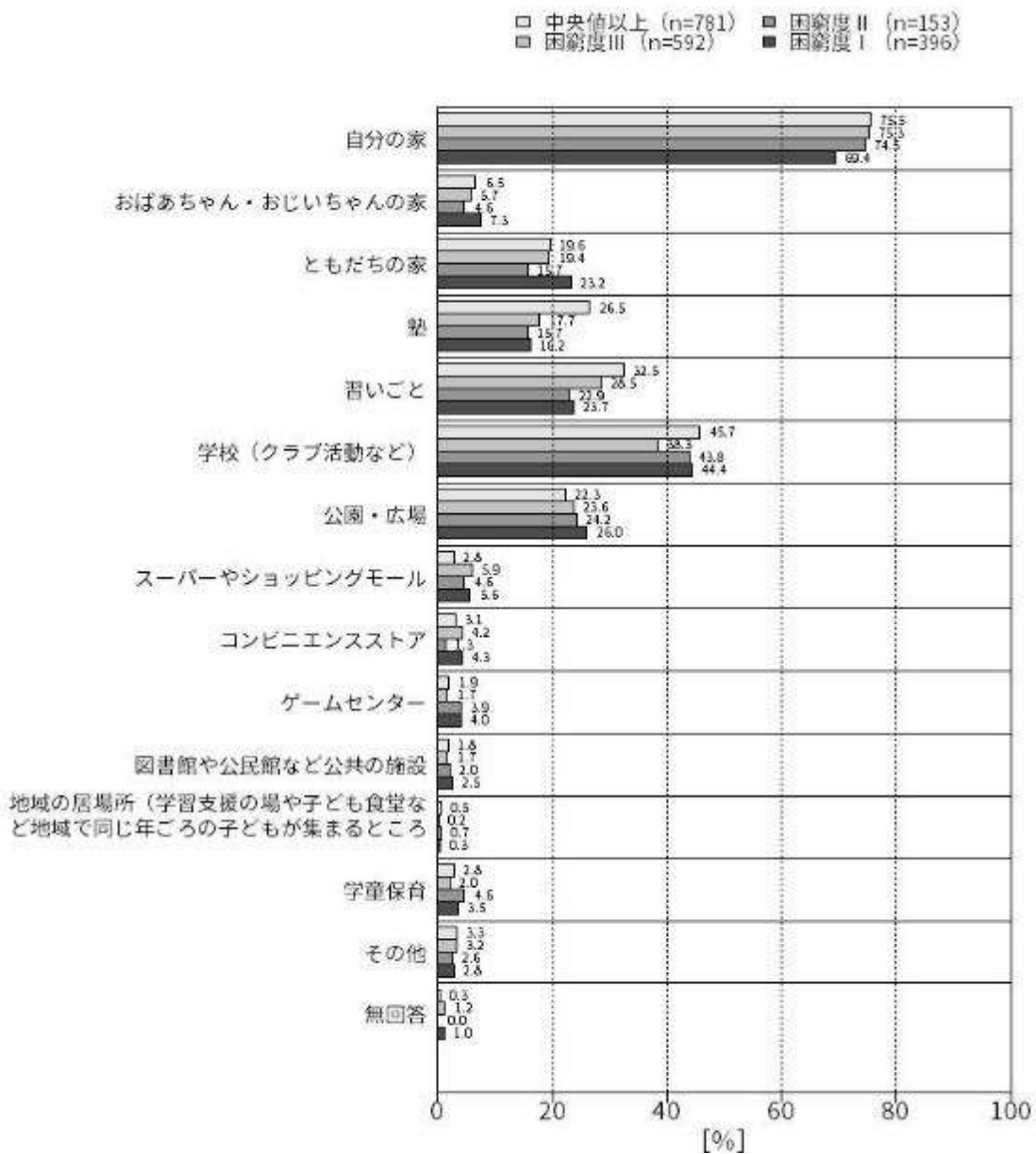


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ゲームセンター」4%（中央値以上群に対して、2.1倍）、「スーパーやショッピングモール」5.6%（2倍）、「図書館や公民館など公共の施設」2.5%（1.4倍）、となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところ）」0.5%（困窮度Ⅰ群に対して、1.7倍）、「塾」26.5%（1.6倍）、「習いごと」32.5%（1.4倍）が高かった。